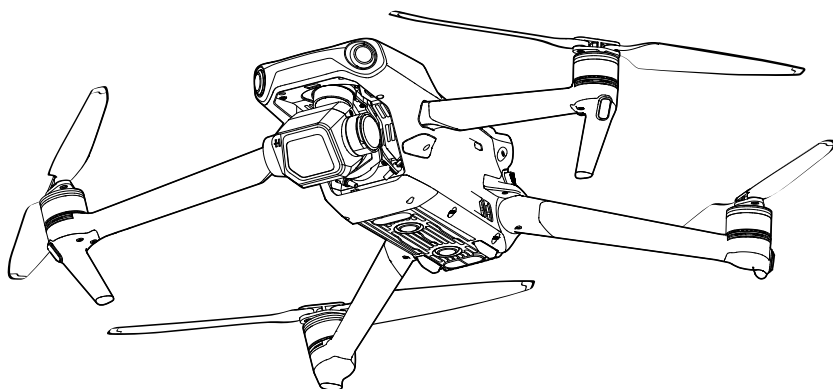


DJI MAVIC 3 CLASSIC

ユーザーマニュアル v1.0 2022.11



キーワードの検索

「バッテリー」や「取り付け」などのキーワードを検索することでトピックを探すことができます。Adobe Acrobat Reader を使用して本書をお読みの場合、Windows では Ctrl+F、Mac では Command+F を押して検索を開始できます。

トピックに移動

目次の全トピック一覧が表示されます。トピックをクリックすると、そのセクションに移動します。

本書の印刷

本書は高解像度印刷に対応しています。

本マニュアルの使用方法

凡例

⚠ 重要

💡 ヒントとコツ

📖 参考

初めてのフライト前にお読みいただくもの

DJI™ MAVIC™ 3 Classic をお使いになる前に、以下の資料をお読みください：

1. 安全ガイドライン
2. クイックスタートガイド
3. ユーザーマニュアル

DJI のウェブサイトにあるすべてのチュートリアルビデオの視聴をお勧めします。初回使用前に、安全に関するガイドラインをお読みください。初めての飛行に際しては「クイックスタートガイド」をよく読み、詳細に関しては本ユーザーマニュアルを参照してください。

チュートリアルビデオ

以下のアドレスにアクセスするか QR コードをスキャンすると、DJI Mavic 3 のチュートリアルビデオを視聴でき、Mavic 3 Classic の安全な使用方法を知ることができます：

Mavic 3 Classic
(ドローン本体のみ)



<https://s.dji.com/guide44>

Mavic 3 Classic
(DJI RC/DJI RC-N1)



<https://s.dji.com/guide45>

DJI Fly アプリのダウンロード

飛行中は、必ず DJI Fly アプリを使用してください。上記の QR コードをスキャンして、最新版をダウンロードしてください。

- ⚠
- DJI RC送信機には、DJI Flyアプリがすでにインストールされています。DJI RC-N1送信機をお使いの場合、DJI Flyアプリをモバイル端末にダウンロードする必要があります。
 - Android版のDJI Flyは、Android v6.0以降で動作します。iOS版のDJI Flyは、iOS v11.0以降で動作します。

* より安全にご使用いただくために、飛行中にこのアプリに接続、ログインしていない場合は、飛行高度が 30 m、飛行範囲が 50 m に制限されます。これは DJI Fly および DJI の機体に対応するすべてのアプリに適用されます。

DJI Assistant 2（一般向けドローン用）のダウンロード

DJI Assistant™ 2（一般向けドローン用）を
<http://www.dji.com/mavic-3-classic/downloads> からダウンロードしてください。

-
- ⚠ ・この製品の動作環境温度は、-10℃ ～ 40℃で、より大きな環境変動に耐えることのできるミリタリーグレードの分野での標準動作環境温度（-55℃ ～ 125℃）の条件を満たしていません。製品を適切に動作させ、この製品の動作環境温度範囲の要件を満たしている分野に対してのみ実行してください。
-

目次

本マニュアルの使用法	3
凡例	3
初めてのフライト前にお読みいただくもの	3
チュートリアルビデオ	3
DJI Fly アプリのダウンロード	3
DJI Assistant 2（一般向けドローン用）のダウンロード	4
製品の特徴	9
はじめに	9
主な機能	9
初めてのご使用にあたって	10
機体の準備	10
送信機の準備	11
DJI Mavic 3 Classic 機体のアクティベーション	12
機体と送信機の紐付け	12
ファームウェアの更新	12
各部名称	12
機体	12
DJI RC 送信機	13
RC-N1 送信機	14
機体	17
フライトモード	17
機体ステータスインジケーター	18
RTH（Return-to-Home：帰還）	19
スマート RTH	19
ローバッテリー RTH	22
フェールセーフ RTH	22
着陸保護	23
高精度着陸	23
ビジョンシステムおよび赤外線検知システム	25
検知範囲	25
ビジョンシステムの使用	26
インテリジェント フライトモード	28
フォーカストラック	28
マスターショット	30
QuickShots	31

ハイパーラプス	33
クルーズコントロール	36
高度操縦支援システム 5.0 (APAS 5.0)	37
フライトレコーダー	38
クイック転送	38
プロペラ	39
プロペラの取り付け	39
プロペラの取り外し	39
インテリジェント フライトバッテリー	40
バッテリーの機能	40
バッテリーの使用	41
バッテリーの充電	42
インテリジェント フライトバッテリーの装着	43
インテリジェント フライトバッテリーの取り外し	43
ジンバル&カメラ	44
ジンバルの特徴	44
ジンバル操作モード	44
カメラの特徴	45
写真と動画の保存とエクスポート	45
送信機	47
DJI RC	47
送信機の使用	47
ステータス LED とバッテリー残量 LED の説明	50
送信機のアラート	50
最適な伝送範囲	51
送信機のリンク	52
タッチ画面の操作	52
高度な機能	55
DJI RC-N1	56
送信機の使用	56
送信機のアラート	59
最適な伝送範囲	59
送信機のリンク	60
DJI Fly アプリ	62
ホーム	62
カメラビュー	63
飛行	70
飛行環境の条件	70

責任ある機体操作	70
飛行制限と GEO 区域	71
GEO (Geospatial Environment Online) システム	71
飛行制限	71
飛行高度と距離制限	71
GEO 区域	72
フライト前チェックリスト	72
自動離陸／自動着陸	73
自動離陸	73
自動着陸	73
モーターの始動と停止	74
モーターの始動	74
モーターの停止	74
飛行中のモーター停止	74
飛行テスト	75
離陸／着陸手順	75
動画に関する提案とヒント	75
付録	77
仕様	77
ファームウェア更新	82
DJI Fly の使用	82
DJI Assistant 2（一般向けドローン用）の使用	82
メンテナンスについての指示	83
トラブルシューティング手順	84
リスクと警告	84
廃棄処分について	85
C1 認定	85
MTOM 記述	85
直接リモート ID	86
適格アクセサリーを含む品目一覧	86
スペアおよび交換部品の一覧	86
送信機の警告	86
GEO 認識	86
アフターサービス情報	89

製品の特徴

本セクションでは DJI Mavic 3 Classic について紹介し、機体と送信機の各部名称について説明します。

製品の特徴

はじめに

DJI Mavic 3 Classicは、赤外線検知システムと前方／後方、上方、側方、下方ビジョンシステムの両機能を搭載し、あらゆる方向の障害物を避けながら、ホバリングや屋内外での飛行が可能で、自動帰還 (Return-to-Home : RTH) の機能も搭載しています。この機体の最大飛行速度は75.6 km/h、最大飛行時間は46分です。

DJI RC送信機には、1920×1080ピクセルの解像度の5.5インチのモニターが搭載されています。ユーザーはWi-Fi経由でインターネットに接続でき、Android OSにはBluetoothとGNSSの両方が含まれています。DJI RC送信機には、機体およびジンバルを制御する様々なボタンが搭載され、カスタマイズ可能なボタンもあります。DJI RCの最大駆動時間は、約4時間です。RC-N1送信機は機体からモバイル端末上のDJI Flyアプリへ映像を送信し、表示します。送信機に搭載されたボタンを使用して機体とカメラを簡単に制御でき、送信機の駆動時間は6時間です。

主な機能

ジンバル&カメラ：DJI Mavic 3 Classicは、4/3型CMOSセンサーのHasselblad L2D-20cカメラを使用し、20 MPの写真撮影と5.1K/50fps、DCI 4K/120fps、H.264/H.265の動画撮影を可能にします。このカメラは、f/2.8からf/11の絞り値の調整が可能で、12.8ストップのダイナミックレンジを実現し、10ビットのD-Log動画に対応しています。

動画伝送：DJI Mavic 3 Classicは、4個の内蔵アンテナとDJIの長距離伝送技術O3+を搭載しています。最大伝送距離は15 km（日本国内では8 km）を誇り、最大1080p/60fpsの動画品質を機体からDJI Flyアプリへ送信し、表示します。送信機は2.4 GHzと5.8 GHzの両方で動作し、自動的に最適な伝送チャンネルを選択できます（日本国内は2.4 GHzのみ利用可）。

インテリジェント フライトモード：また、高度操縦支援システム5.0 (APAS 5.0)により、機体があらゆる方向の障害物を回避し、フォーカストラック、マスターショット、QuickShots、ハイパーラプスを使用して複雑な写真を難なく撮影するため、ユーザーは機体の操作に集中できます。

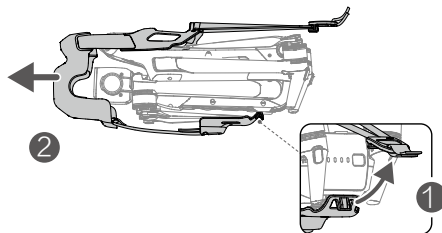
-
- ⚠️
- 最大飛行時間は、無風の環境下で一定の飛行速度32.4 km/hで飛行させ試験しました。最大飛行速度は、無風の海拔高度で試験しました。欧州連合 (EU)では、最大飛行速度は68.4 km/hに制限されています。これらの値は参考値です。
 - 送信機は、電波干渉のない広くて開けた場所で、高度約120 mの時、最大伝送距離 (FCC) に達します。最大伝送距離とは、機体が伝送を送受信できる最大距離を指します。機体が1回の飛行で飛行できる最大距離を指すものではありません。最大動作時間は、ラボ環境での試験によるもので、モバイル端末の充電時間を含みません。この値は参考値です。
 - 5.8 GHzは、一部の地域では対応していません。現地法および規制を順守してください。
 - DJI RC-N1、DJI RC送信機、NDフィルターの全タイプはMavic 3 Classicと完全な互換性があります。
-

初めてのご使用にあたって

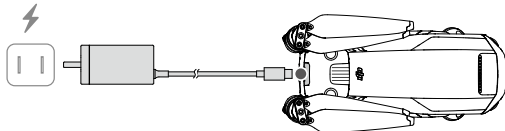
DJI Mavic 3 Classicは、折りたたんだ状態で梱包されています。以下の手順に従って、機体と送信機を展開してください。

機体の準備

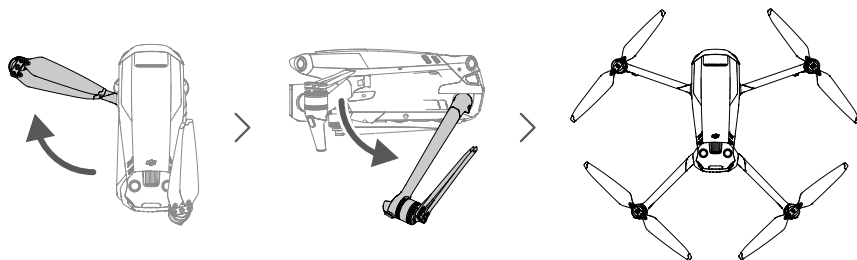
1. ストレージカバーを取り外します。



2. すべてのインテリジェント フライトバッテリーは、安全のためにハイバネーション モードで配送されます。初めて使用する際は、インテリジェント フライトバッテリーを充電してアクティベーションしてください。同梱されているDJI 65 W充電器を使用すると、インテリジェント フライトバッテリーは約1時間36分で完全に充電します。充電時間は充電器の専用ケーブルを使用して測定されました。このケーブルを使用して、インテリジェント フライトバッテリーを充電することをお勧めします。



3. 前方のアーム、後方のアーム、プロペラブレードの順に展開します。

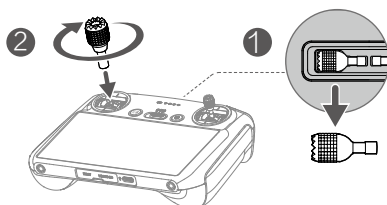


- ⚠
- 確実に、前方のアームを展開してから、後方のアームを展開してください。
 - ストレージカバーを取り外し、すべてのアームを展開してから、機体の電源を入れてください。この手順に従わないと、機体の自己診断テストに影響が出る恐れがあります。
 - 機体を使用しないときは、ストレージカバーを装着してください。
 - DJI 65 W充電器はMavic 3 Classicには付属していません（ドローン本体のみ）。PD 65 W充電器を使用して、インテリジェント フライトバッテリーを充電することをお勧めします。

送信機の準備

以下の手順で、DJI RC送信機を使用する準備をしてください。

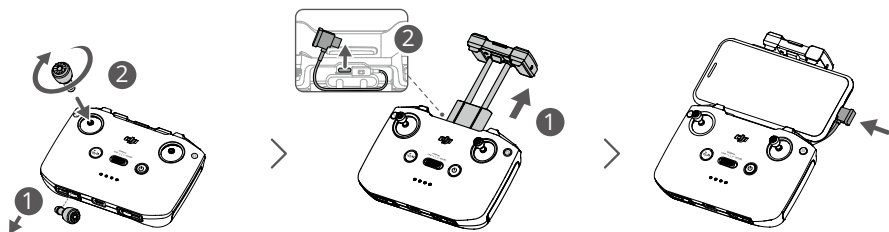
1. 操作スティックを収納スロットから取り外し、送信機に取り付けます。



2. 初めて使用する場合、送信機のアクティベーションが必要です。アクティベーションする際は、インターネットへの接続が必要になります。電源ボタンを押した後、再度長押しして送信機の電源を入れます。画面の指示に従って、送信機をアクティベーションします。

以下の手順で、DJI RC-N1送信機を準備してください。

1. 操作スティックを送信機の収納スロットから取り外し、所定の位置にねじって取り付けます。
2. モバイル端末ホルダーを引き出します。モバイル端末の種類に合わせて、適切な送信機ケーブルを選択してください。Lightningコネクターケーブル、Micro USBケーブルとUSB-Cケーブルが同梱されています。電話のアイコンが付いたケーブルの端をお手持ちのモバイル端末に接続します。モバイル端末がしっかり固定されていることを確認してください。



- ⚠️ • Androidモバイル端末を使用しているときにUSB接続プロンプトが表示された場合は、[充電のみ]を選択してください。手順に従わないと、接続に失敗する場合があります。

DJI Mavic 3 Classic機体のアクティベーション

初めて使用する前に、DJI Mavic 3 Classicをアクティベーションする必要があります。機体と送信機の電源を入れた後、DJI Flyで画面上の指示に従ってDJI Mavic 3 Classicをアクティベーションします。アクティベーションにはインターネット接続が必要です。

機体と送信機の紐付け

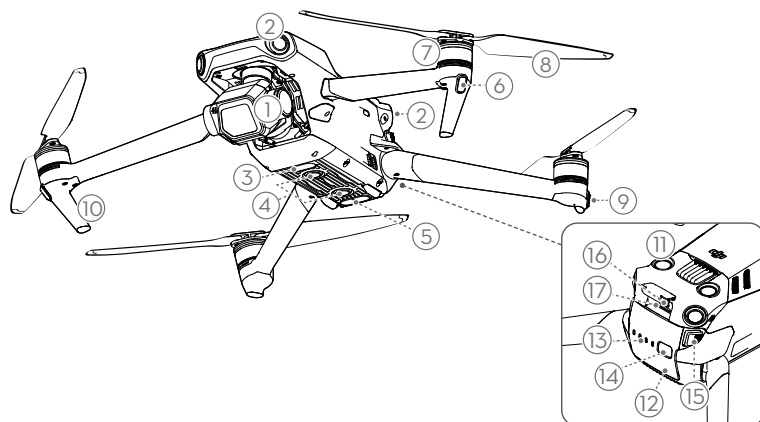
最良のアフターサービスを受けられるように、機体と送信機を紐付けしておくことをお勧めします。アクティベーション後、画面の指示に従って、機体と送信機を紐付けします。

ファームウェアの更新

新しいファームウェアが利用可能になると、DJI Flyにプロンプトが表示されます。最高のユーザーエクスペリエンスを提供するために、プロンプトが表示されたら、ファームウェアを更新することをお勧めします。

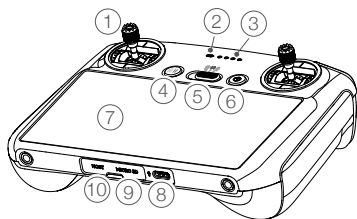
各部名称

機体



- | | |
|------------------|-----------------------|
| 1. ジンバル&カメラ | 10. ランディングギア（アンテナ内蔵） |
| 2. 全水平方向ビジョンシステム | 11. 上方ビジョンシステム |
| 3. 底部補助ライト | 12. インテリジェントフライトバッテリー |
| 4. 下方ビジョンシステム | 13. バッテリー残量LED |
| 5. 赤外線検知システム | 14. 電源ボタン |
| 6. フロントLED | 15. バッテリーバックル |
| 7. モーター | 16. USB-Cポート |
| 8. プロペラ | 17. microSDカードスロット |
| 9. 機体ステータスインジケータ | |

DJI RC送信機



1. 操作スティック

操作スティックを使用して、機体の動きを制御します。操作スティックは、着脱可能で簡単に収納できます。DJI Flyのフライトコントロールモードを設定します。

2. ステータスLED

送信機の状態を示します。

3. バッテリー残量LED

送信機の現在のバッテリー残量を表示します。

4. 飛行一時停止／RTH (Return-to-Home) ボタン

ボタンを1回押すと機体にブレーキがかかり、その場でホバリングを行います (GNSSまたはビジョンシステムが利用可能な場合

のみ)。長押しすると、RTHを起動します。再度押すと、RTHはキャンセルされます。

5. フライトモードスイッチ

Cine (シネ)、Normal (ノーマル)、Sport (スポーツ) の3種類のフライトモードを切り替えます。

6. 電源ボタン

ボタンを1回押すと、現在のバッテリー残量を確認できます。1回押し、次に長押しすると、送信機の電源オン／オフを切り替えられます。送信機の電源が入っているときに、1回押すと、タッチ画面のオン／オフを切り替えられます。

7. タッチ画面

画面をタッチして、送信機を操作します。タッチ画面は防水ではありません。慎重に操作してください。

8. USB-Cポート

送信機の充電や送信機とパソコンとの接続のために使用します。

9. microSDカードスロット

microSDカードを挿入します。

10. ホストポート (USB-C)

予備ポート。

11. ジンバルダイヤル

カメラのチルトを操作します。

12. 録画ボタン

1回押すと、録画を開始／停止します。

13. カメラ制御ダイヤル

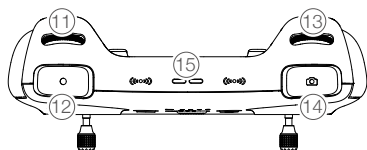
デフォルトではズームイン／ズームアウトを操作します。ダイヤルの機能はDJI Flyアプリで設定できます。

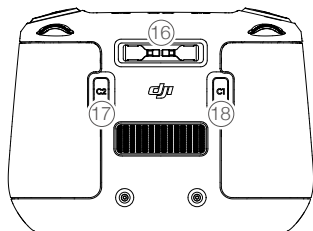
14. フォーカス／シャッターボタン

ボタンを半押しするとオートフォーカスが作動し、全押しすると写真を撮影します。録画モードで1回押すと、静止画モードに切り替わります。

15. スピーカー

音声を出力します。



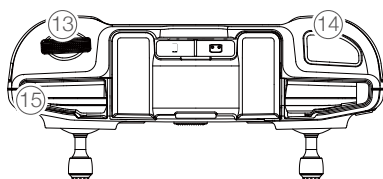
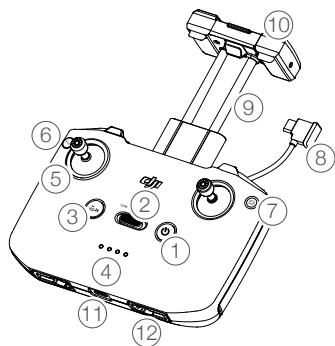


16. 操作スティック収納スロット
操作スティックの収納用です。

17. カスタムボタンC2
デフォルトでは底部補助ライトを操作します（EU地域での使用時にデフォルトではジンバルの再センタリングとジンバルを下向きに向けるかを切り替えます）。この機能はDJI Flyで設定できます。

18. カスタムボタンC1
ジンバルの再センタリングとジンバルを下方に向ける機能を切り替えます。この機能はDJI Flyで設定できます。

RC-N1 送信機



1. 電源ボタン
ボタンを1回押すと、現在のバッテリー残量を確認できます。ボタンを1回押し、次に長押しすると、送信機の電源オン/オフを切り替えられます。
2. フライトモードスイッチ
スポーツ、ノーマル、シネモードを切り替えます。
3. 飛行一時停止/RTH (Return-to-Home)
ボタンを1回押すと機体にブレーキがかかり、その場でホバリングを行います（GNSSまたはビジョンシステムが利用可能な場合のみ）。このボタンを長押しする

と、RTHを起動します。再度押すと、RTHはキャンセルされます。

4. バッテリー残量LED
送信機の現在のバッテリー残量を表示します。
5. 操作スティック
操作スティックを使用して、機体の動きを制御します。DJI Flyのフライトコントロールモードを設定します。操作スティックは、着脱可能で簡単に収納できます。
6. カスタムボタン
1回押すと、ジンバルを再センタリングする、もしくはジンバルを下方に傾けます

(デフォルト設定)。2回押すと、底部補助ライトの点灯／消灯を切り替えます。このボタンはDJI Flyで設定できます。

7. 写真／動画の切り替え

1回押すと写真モードと動画モードを切り替えます。

8. 送信機ケーブル

送信機ケーブルを介して動画リンクするモバイル端末に接続します。モバイル端末の種類に合ったケーブルを選択してください。

9. モバイル端末ホルダー

モバイル端末を送信機にしっかりと取り付けるために使用します。

10. アンテナ

機体制御信号と動画無線信号を中継します。

11. USB-Cポート

送信機の充電や送信機とパソコンとの接続のために使用します。

12. 操作スティック収納スロット

操作スティックの収納用です。

13. ジンバルダイヤル

カメラのチルトを操作します。

14. シャッター／録画ボタン

1回押すと、写真を撮影するか、録画を開始／停止します。

15. モバイル端末スロット

モバイル端末を固定するために使用します。

機体

DJI Mavic 3 Classicは、フライトコントローラー、動画ダウンリンクシステム、ビジョンシステム、赤外線検知システム、推進システム、インテリジェント フライトバッテリーで構成されています。

機体

DJI Mavic 3 Classicは、フライトコントローラー、動画ダウンリンクシステム、ビジョンシステム、赤外線検知システム、推進システム、インテリジェント フライトバッテリーで構成されています。

フライトモード

DJI Mavic 3 Classicには、3つのフライトモードに加えて特定のシナリオで機体のモードが切り替わる第4のフライトモードがあります。送信機のフライトモードスイッチを使用して、フライトモードを切り替えることができます。

ノーマルモード（Nモード）：機体は、GNSSと全水平方向（前方、後方、側方）、上方、下方ビジョンシステムおよび赤外線検知システムを利用して、機体自身の位置を測位し、安定化します。GNSS信号が強いときには機体はGNSSを使用して機体自身の位置を測位し、安定化を行います。GNSSが弱く、周囲が十分に明るく、その他の環境条件が十分揃っている場合、機体はビジョンシステムを使用して機体自身の位置を測位し、安定化を行います。全水平方向（前方、後方、側方）、上方、下方ビジョンシステムが有効で、周囲が十分に明るく、その他の環境条件が十分揃っている場合、最大チルト角度は30°で、最大飛行速度は15 m/sです。

スポーツモード（Sモード）：スポーツモードでは、機体はGNSSを使用して測位し、敏捷性と速度に対する機体の反応性が最適化され、操作スティックの動きに対して反応がより機敏になります。このモードでは障害物検知が無効になっており、最大飛行速度は21 m/sになります。（EUの場合、最大飛行速度は19 m/s）

シネモード（Cモード）：シネモードはノーマルモードに基づいていますが、飛行速度が制限されるため、撮影中の機体はより安定します。

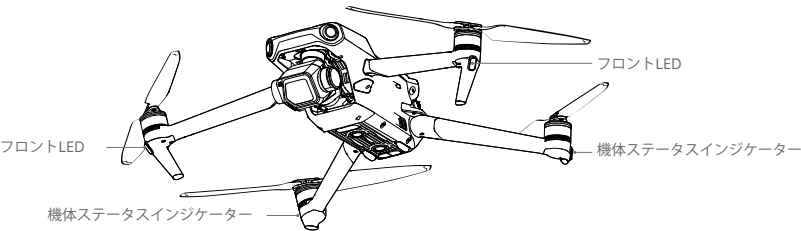
ビジョンシステムが利用できないか無効になっている場合、かつGNSS信号が弱いかコンパスが干渉を受けている場合、機体は自動的に姿勢モード（ATTIモード）に切り替わります。ATTIモードでは、機体は周囲環境の影響をより受けやすくなります。風などの環境要因によって水平方向に移動することがあり、狭いスペースを飛行している際は特に危険を招くおそれがあります。



- ・全水平方向（前方、後方、側方）、上方ビジョンシステムはスポーツモードでは無効になります。これは、機体がルート上の障害物を自動的に検知できないということです。
- ・スポーツモードでは、機体の最大速度が向上し、制動距離が著しく増加します。無風状態の場合、制動距離は少なくとも30 m必要です。
- ・機体の上昇時と下降時は、無風状態の場合で、少なくとも10 mの制動距離が必要です。
- ・スポーツモードでは、機体の応答性が著しく向上します。そのため、送信機の操作スティックをわずかに動かしただけでも、機体は大きく移動します。飛行中は必ず、十分な飛行スペースを確保するようにしてください。

機体ステータスインジケータ

DJI Mavic 3 Classicには、フロントLEDと機体ステータスインジケータが搭載されています。



機体の電源は入っているがモーターが作動していない場合、フロントLEDが赤色に点灯し、機体の向きを表示します。

機体の電源は入っているがモーターが作動していない場合、機体ステータスインジケータはフライトコントロール システムの状態を表示します。機体ステータスインジケータの詳細については、下表を参照してください。

機体ステータスインジケータの状態

正常の状態			
	赤色、緑色、黄色が交互に	点滅	電源がオンになり、自己診断テストを実行
 x4	黄色	4回点滅	ウォーミングアップ
	緑色	ゆっくりと点滅	GNSSが有効
 x2	緑色	定期的に2回点滅	ビジョンシステムが有効
	黄色	ゆっくりと点滅	GNSSまたはビジョンシステムなし
警告の状態			
	黄色	素早く点滅	送信機の信号ロスト
	赤	ゆっくりと点滅	バッテリー残量低下
	赤	素早く点滅	バッテリー残量極度に低下
 ——	赤	点灯	重大なエラー
	赤色と黄色が交互に	素早く点滅	コンパスキャリブレーションが必要

モーターが始動すると、フロントLEDが赤色と緑色に交互に点滅し、機体ステータスインジケータが緑色に点滅します。緑色のライトは機体がUAVであることを示し、赤色のライトは機体の向きと位置を示します。

⚠ • DJI FlyアプリでフロントLEDが自動に設定されている場合、より優れた映像を撮影するために、撮影時にフロントLEDが自動的にオフになります。照度要件は地域によって異なります。現地の法律および規制を順守してください。

RTH（Return-to-Home：帰還）

Return to Home (RTH) 機能により、測位システムが正常に機能しているとき、機体は最後に記録されたホームポイントに戻ります。RTHには3種類あります。スマートRTH、ローバッテリーRTH、フェールセーフRTHです。スマートRTHが開始されるか、機体がローバッテリーRTHに入るか、または飛行中にビデオリンクの信号がロストすると、機体は自動的にホームポイントに戻り、着陸します。

	GNSS	説明
ホームポイント		デフォルトのホームポイントは、強いまたはやや強いGNSS信号（白いアイコン）を機体が最初に受信した場所です。ホームポイントは、機体が強いまたはやや強いGNSS信号を受信しているときに限り、離陸前に更新できます。GNSS信号が弱い場合は、ホームポイントを更新できません。

スマートRTH

十分に強いGNSS信号を受信している場合は、スマートRTHを使用して機体をホームポイントに戻すことができます。DJI Flyでをタップするか送信機のRTHボタンをピープ音が鳴るまで長押しすることで、スマートRTHを起動します。DJI Flyでをタップするか送信機のRTHボタンを押すことで、スマートRTHを終了できます。

アドバンストRTH

スマートRTH起動時、十分に明るい環境でビジョンシステムに適していると、アドバンストRTHは有効になります。機体は自動的に最適な帰還ルートを計画し、そのルートをDJI Flyで表示し、環境に応じて調整します。

RTH設定

RTH設定はアドバンストRTHで使用可能です。DJI Flyでカメラビューに入り、[システム]->[安全性]->[RTH]の順にタップします。

- 1. オプション：RTH高度の設定に関係なく、機体は最適なRTH経路を自動的に計画し、障害物や伝送信号などの環境要因に応じて高度を調整します。最適なRTH経路とは、機体が可能な限り最短距離を飛行することでバッテリー使用量が抑えられて長時間の飛行を可能にする経路を指します。
- 2. プリセット：RTH開始時に機体がホームポイントから50 mより離れていた場合、機体はRTH経路を計画し障害物を回避しながら開けた場所まで飛行し、RTH高度まで上昇してから最適な経路を通して帰還（Return-to-Home）します。RTH開始時に機体がホームポイントから5 m～50 mの距離にある場合、機体はRTH高度まで上昇せず、現在の高度で最適な経路を通してReturn-to-Homeします。機体がホームポイント付近にいる場合は、現在の高度がRTH高度より高ければ機体は前方に飛行しながら下降します。

アドバンスドRTHの手順

1. ホームポイントが記録されます。
2. アドバンスドRTHが起動されます。
3. 機体はブレーキをかけて、その場でホバリングします。
 - a. RTH開始時に機体からホームポイントまでの距離が5 m未満の場合、機体は速やかに着陸します。
 - b. RTH開始時に機体がホームポイントから5 m以上離れている場合、機体はRTH設定に応じて最適なルートを計画し、障害物やGEO区域を回避しながらホームポイントまで飛行します。機体の機首（前面）は常に飛行方向と同じ方向を向いています。
4. RTH中、機体はRTH設定、環境、伝送信号に応じて自動で飛行します。
5. 機体はホームポイントに到達すると、着陸してモーターを停止します。



直線RTH

明るさが不十分で、環境がアドバンスドRTHに適していない場合、機体は直線RTHに入ります。

直線RTHの手順：

1. ホームポイントが記録されます。
2. 直線RTHが起動します。
3. 機体はブレーキをかけて、その場でホバリングします。
 - a. RTH開始時に機体からホームポイントまでの距離が5 m未満の場合、機体は速やかに着陸します。
 - b. RTH開始時に機体がホームポイントから5～50 mの距離にある場合、機体は向きを調整し現在の高度でホームポイントに飛行します。RTH開始時に現在の高度が2 m未満の場合、機体は2 mまで上昇し、ホームポイントに飛行します。
 - c. RTH開始時に機体がホームポイントから50 m以上離れている場合、機体は向きを調整し事前設定したRTH高度まで上昇しホームポイントに向かいます。現在の高度がRTH高度より高い場合、機体は現在の高度でホームポイントに向かいます。
4. 機体はホームポイントに到達すると、着陸してモーターを停止します。

- ⚠
- ・アドバンスドRTH中、機体は風速や障害物などの環境要因に応じて飛行速度を自動で調整します。
 - ・機体は木の枝や送電線などの小さく細い物体を回避することはできません。スマートRTHを使用する前に機体を開けた場所で飛行させてください。
 - ・RTH経路で機体が回避できない送電線や鉄塔が存在する場合には、アドバンスドRTHを事前設定し、RTH高度を必ずすべての障害物より高い高度に設定しておいてください。
 - ・RTH設定をRTH中に変更しても、機体は前回の設定に従ってブレーキをかけてReturn-to-Homeします。
 - ・RTH時、最大高度が現在の高度よりも低い高度に設定されていた場合、機体は最大高度まで下降してReturn-to-Homeします。
 - ・RTH高度はRTH時には変更できません。
 - ・現在の高度とRTH高度が大きく異なる場合は、異なる高度での風速により消費したバッテリー使用量を正確に計算することはできません。バッテリー残量とDJI Flyの警告プロンプトに細心の注意を払ってください。
 - ・離陸時またはRTH中の照度条件や環境がビジョンシステムに適していない場合は、アドバンスドRTHは使用できません。
 - ・アドバンスドRTH中に、照度条件と環境がビジョンシステムに適していないために機体が障害物を回避できない場合、機体は直線RTHに入ります。RTHに入る前に、適切なRTH高度を設定しておく必要があります。
 - ・アドバンスドRTH中、送信機信号が正常な場合、ピッチスティックを使用して飛行速度を制御することはできませんが、その向きと高度を制御したり、機体を左右に飛行させたりすることはできません。加速すると、より多くの電力を消費します。飛行速度が有効検知速度を超えると、機体は障害物を回避できません。ピッチスティックを下に最後まで倒すと、機体にブレーキがかかり停止し、その場でホバリングし、RTHを終了します。ピッチスティックを離すと、機体を制御することができます。
 - ・直線RTHで上昇している時、スロットルスティックを下に最後まで倒すと、機体は上昇を停止し、RTHを終了します。スロットルスティックを離すと、機体を制御することができます。直線RTHで前方に飛行している時、ピッチスティックを下に最後まで倒すと、機体にブレーキがかかり停止し、その場でホバリングし、RTHを終了します。ピッチスティックを離すと、機体を制御することができます。
 - ・機体がRTH中に上昇している時に最大高度に達すると、機体は停止し、現在の高度でホームポイントまで飛行します。
 - ・前方に障害物を検知して、機体上昇している場合に最大高度に達すると、機体はその場でホバリングします。
 - ・直線RTH中、送信機信号が正常な場合、送信機を使用して機体の速度と高度を制御できます。しかし、機体の向きと飛行方向は制御できません。ピッチスティックを使用して加速させ、飛行速度が有効検知速度を超えたときには、機体は障害物を回避できません。

ローバッテリーRTH

インテリジェント フライトバッテリー残量が、安全な帰還に影響が出る残量にまで減少すると、ローバッテリーRTHが起動します。ローバッテリー警告が表示されたら、直ちに機体を帰還させるか、着陸させてください。

バッテリー不足によって生じる不必要な危険を回避するために、機体は現在の位置、環境、飛行速度に応じて、バッテリー電力がホームポイントまで戻るのに十分であるかどうかを自動で計算します。バッテリー残量が低下し、機体がローバッテリーRTHのみでできる状態の場合、DJI Flyに警告プロンプトが表示されます。

送信機のRTHボタンを押すことでRTHをキャンセルできます。ローバッテリー残量（バッテリー残量低下）警告が出た後にRTHをキャンセルすると、インテリジェント フライトバッテリーの残量不足で安全に着陸できず、墜落したり紛失したりするおそれがあります。

今いる高度から下降するだけのバッテリー残量がある場合は、機体は自動的に着陸を開始します。自動着陸をキャンセルすることはできませんが、送信機を使用して着陸中の機体の方向や下降速度を操作できます。バッテリー残量が十分にある場合は、スロットルスティックを使用して上昇速度を1 m/s上げることができます。バッテリー残量がほとんどない場合は、機体は強制着陸します。スロットルスティックを使用して下降速度を変更することはできません。

自動着陸中は、できるだけ早く安全な場所に着陸させてください。バッテリーがなくなると、機体は墜落します。

フェールセーフRTH

ホームポイントが正しく記録され、コンパスが正常に動作している場合、送信機信号ロストの時間が6秒を超えると、フェールセーフRTHが自動的に起動します。送信機信号ロスト時の機体が行うアクションを、DJI FlyでRTHに設定しておく必要があります。

十分に明るく、ビジョンシステムが正常に機能している場合、送信機信号がロストする前に、機体によって生成されたRTH経路がDJI Flyに表示され、RTH設定に応じたアドバンスドRTHを使用してReturn-to-Homeします。送信機信号が回復しても、機体はRTHモードのままになります。

明るさが不十分でビジョンシステムが利用できない場合、機体はオリジナルルートRTHに入ります。

オリジナルルートRTHの手順：

1. 機体はブレーキをかけて、その場でホバリングします。
2. a. RTH開始時に機体からホームポイントまでの距離が5 m未満の場合、機体は速やかに着陸します。
b. 機体がホームポイントから5 m～50 m未満離れている場合、直線RTHに入ります。
c. 機体がホームポイントから50 m以上離れている場合、機体は向きを調整し元の飛行ルート上を50 m戻るように飛行し、その後直線RTHに移行します。
3. 機体はホームポイントに到達すると、着陸してモーターを停止します。

オリジナルルートRTH中に送信機信号が回復しても、機体は直線RTHに入るか直線RTHをそのまま実行します。

- ⚠
- DJI FlyでRTHが起動され、機体がホームポイントから5 m以上離れている場合には、アプリにプロンプトが表示され、着陸オプションを選択できます。
 - GNSS信号が弱いまたは利用不可の場合、機体は正常にホームポイントに戻れないことがあります。フェールセーフRTHに入った後に、GNSS信号が弱くなった、または利用不可になった場合、機体はATTIモードに入ることがあります。機体は着陸する前に、しばらくの間その場でホバリングします。
 - 飛行の前には、その都度、適切なRTH高度を設定してください。DJI Flyを起動して、RTH高度を設定します。デフォルトのRTH高度は100 mです。
 - ビジョンシステムが使用できない場合、フェールセーフRTH中、機体は障害物を回避することができません。
 - GEO区域はRTHに影響を及ぼす恐れがあります。GEO区域付近での飛行は避けてください。
 - 風速が強すぎると、機体はホームポイントに戻ることができない場合があります。慎重に飛行してください。
 - RTH中は、小さく細い物体（木の枝や送電線など）や、透明な物体（水やガラスなど）に注意してください。緊急時はRTHを終了し、機体を手動で操作してください。
 - 一部の環境では、ビジョンシステムが機能していても、RTHを使用できない場合があります。次の場合、機体はRTHを終了します。

着陸保護

着陸保護機能は、スマートRTH中に有効になります。機体が着陸を開始すると、着陸保護が有効になります。

1. 着陸保護中、地面が着陸に適していると機体が判断すると、慎重に着陸します。
2. 地面が着陸に適していないと判断された場合には、機体はその場でホバリングして、パイロットの確認を待ちます。
3. 着陸保護機能が作動しない場合、機体が地表0.5 m未満まで下降すると、DJI Flyが着陸プロンプトを表示します。スロットルスティックを下に倒すか、自動着陸スライダーを使用して着陸させます。

高精度着陸

機体はRTH中に、機体の下の地形の特徴を自動的にスキャンして照合します。現在の地形がホームポイントの地形と合致したときに、機体は着陸します。地形が合致しなかった場合、DJI Flyにプロンプトが表示されます。

- ⚠
- 高精度着陸中、着陸保護は有効化されます。
 - 高精度着陸の性能は、以下の条件に左右されます。
 - a. 離陸時にホームポイントが記録される必要があり、飛行中に変更してはいけません。そうしなかった場合、機体にホームポイントの地形特徴の記録が存在しないことになります。
 - b. 離陸中、水平方向へ飛行する前に、機体は少なくとも7 m上昇しておく必要があります。
 - c. ホームポイントの地形特徴が、激しく変化していない状態である必要があります。
 - d. ホームポイントの地形特徴が、他と区別できる状態である必要があります。雪で覆われたエリアなどの地形には適していません。
 - e. 照度条件が、明るすぎず暗すぎない状態である必要があります。



- ・高精度着陸中は、以下の操作を行うことができます。
 - a. スロットルスティックを下に倒して着陸を加速する。
 - b. 操作スティックをスロットル方向以外の任意の方向に動かして、高精度着陸を停止する。操作スティックが解放された後、機体は垂直に降下します。
-

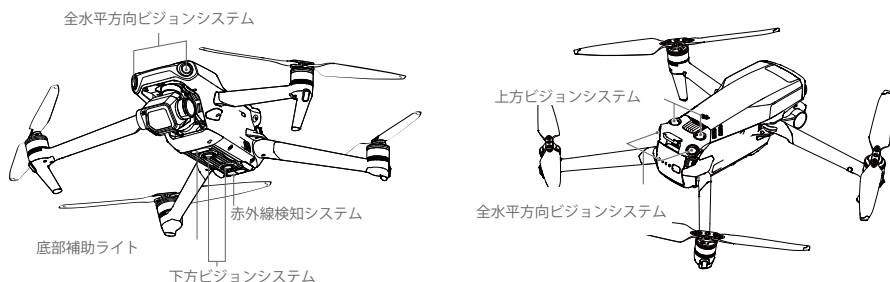
ビジョンシステムおよび赤外線検知システム

DJI Mavic 3 Classicには、赤外線検知システムと全水平方向（前方／後方／側方）／上方／下方ビジョンシステムの両方が搭載されています。

上方／下方ビジョンシステムはそれぞれ2台のカメラで構成され、全水平方向（前方／後方／側方）ビジョンシステムは合計4台のカメラで構成されています。

赤外線検知システムは、2つの3D赤外線モジュールで構成されています。下方ビジョンシステムおよび赤外線検知システムは、GNSSを利用できない屋内やその他の環境下で飛行するために、機体が現在位置を維持し、より正確にホバリングできるようにします。

さらに、機体の下側にある底部補助ライトは、低照度条件下での下方ビジョンシステムの可視性を向上させます。



検知範囲

前方ビジョンシステム

高精度測定範囲：0.5～20 m、FOV：90°（水平）、103°（垂直）

後方ビジョンシステム

高精度測定範囲：0.5～16 m、FOV：90°（水平）、103°（垂直）

側方ビジョンシステム

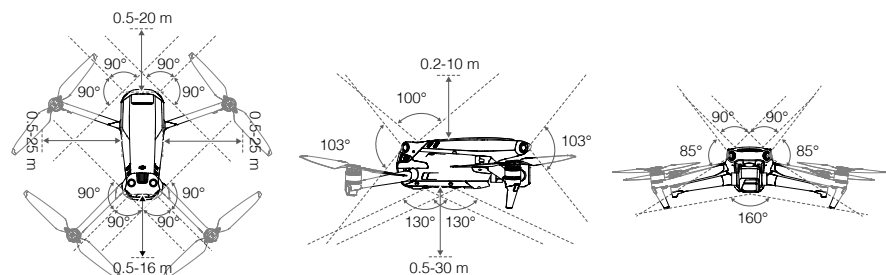
高精度測定範囲：0.5～25 m、FOV：90°（水平）、85°（垂直）

上方ビジョンシステム

高精度測定範囲：0.2～10 m、FOV：100°（前方／後方）、90°（左右）

下方ビジョンシステム

高精度測定範囲：0.3～18 m、FOV：130°（前方／後方）、160°（左右） 下方ビジョンシステムは、機体が高度0.5～30 mにある場合に最も効果を発揮します。



ビジョンシステムの使用

GNSSを使用できない場合で、明確な質感の地面で十分な明るさがあるときは、下方ビジョンシステムが有効になります。

機体がノーマルモードあるいはシネモードで、DJI Flyで障害物回避が「迂回」または「ブレーキ」に設定されている場合、全水平方向（前方／後方／側方）／上方ビジョンシステムは機体の電源オン時に自動的に有効化されます。全水平方向（前方／後方／側方）／上方ビジョンシステムで障害物を検知した時は、機体が能動的にブレーキをかけます。全水平方向（前方／後方／側方）／上方ビジョンシステムは、明るさが適切で障害物がはっきりと目立つか質感がある場合に最も効果的に動作します。慣性があるため、ユーザーは適切な距離内で機体にブレーキをかける必要があります。



- ・ビジョンシステムは、障害物を検知し、回避する能力が限られており、周辺環境によって性能が影響を受ける可能性があります。機体は目視内で維持し、DJI Flyのプロンプトに注意してください。
- ・下方ビジョンシステムは、利用可能なGNSSがなく機体が高度0.5～30 mで飛行している場合に最も効果を発揮します。機体の高度が30 mを超える場合は、ビジョンシステムが影響を受ける場合があるため細心の注意が必要です。
- ・底部補助ライトはDJI Flyで設定できます。〔自動〕に設定すると、環境光が弱すぎる場合、自動的に有効になります。底部補助ライトが点灯している場合には、ビジョンシステム カメラの性能に影響を受ける可能性があります。GNSS信号が弱い場合は慎重に飛行してください。
- ・水や雪で覆われたエリアの上を機体が飛行している場合は、ビジョンシステムが適切に機能しないことがあります。そのような場所では、機体を適切に着陸させられない場合があります。機体は目視内で維持し、DJI Flyのプロンプトに注意してください。
- ・ビジョンシステムは、はっきりとしたパターンの変化がない地表の上空では適切に機能しません。ビジョンシステムは、次のような状況では適切に機能しません。機体を注意深く操作してください。
 - a. モノクロ（黒一色、白一色、緑一色など）の地表面上を飛行している場合。
 - b. 反射率が高い地表面上を飛行している場合。
 - c. 水面または透明な地表面上を飛行している場合。
 - d. 動く面または物体の上空を飛行している場合。
 - e. 明るさが頻繁に、または急激に変わるエリアを飛行している場合。
 - f. 非常に暗い（10ルクス未満）または非常に明るい（40,000ルクス超）地表面上を飛行している場合。
 - g. 赤外線を強力に反射または吸収する地表面（鏡など）の上空を飛行している場合。
 - h. はっきりした模様や構造のない地表面上を飛行している場合。
 - i. 同じ模様や構造が繰り返し現れる（同じデザインのタイルなど）地表面上を飛行している場合。
 - j. 表面積の小さい障害物上を飛行している場合（木枝など）。
- ・センサーは常にきれいな状態に保ってください。センサーを覆ったり、遮ったりしないでください。ほこりや湿気のある環境で機体を使用しないでください。
- ・長期間保管後、ビジョンシステムカメラはキャリブレーションが必要な場合があります。DJI Flyにプロンプトが表示され、自動的にキャリブレーションを実行します。
- ・雨や霧、または視界が不明瞭な日には飛行しないでください。



- 離陸前に必ず以下を確認してください。
 - a. 赤外線センサーやビジョンシステムにステッカーやその他の障害物がないことを確認します。
 - b. 赤外線センサーやビジョンシステムに汚れや埃、水が付いている場合は、柔らかい布で拭き取ります。アルコールを含む洗浄剤は使用しないでください。
 - c. 赤外線センサーおよびビジョンシステムのガラスに傷などがある場合は、DJIサポートにお問い合わせください。
 - 赤外線検知システムを遮断しないでください。
-

インテリジェント フライトモード

フォーカストラック

フォーカストラックには、Spotlight 2.0、Point of Interest 3.0、ActiveTrack 5.0のモードがあります。

Spotlight 2.0

カメラを被写体にロックした状態で、機体を手動で制御します。このモードは、車両、ボート、人などの静止した被写体と動く被写体の両方に対応します。被写体を中心に旋回するにはロールスティックを動かし、被写体からの距離を変更するにはピッチスティックを動かし、高度を変更するにはスロットルスティックを動かし、フレームを調整するにはパンスティックを動かします。

△ ・ロール、ピッチ、スロットル、パンスティックの詳細については、「送信機と機体の操作」セクションを参照してください。

Spotlightモードでは、DJI Flyで機体の動作が迂回またはブレーキに設定されている場合でも、ビジョンシステムが正常に動作している時に障害物が検知されると、機体はその場でホバリングします。スポーツモードではビジョンシステムは無効になります。

Point of Interest 3.0 (POI 3.0)

機体は設定された半径と飛行速度をもとに、被写体を中心に旋回しながら、被写体をフレームにとらえ続けます。このモードは、車両、ボート、人などの静止した被写体と動く被写体の両方に対応します。最大飛行速度は12 m/sで、飛行速度は実際の半径に応じて動的に調整されることがあります。速度を変更するにはロールスティックを動かし、被写体からの距離を変更するにはピッチスティックを動かします。また、高度を変更するにはスロットルスティックを動かし、フレームを調整するにはパンスティックを動かします。

このモードでは、機体はビジョンシステムが正常に動作しているときにDJI Flyの設定に関係なく、障害物を迂回します。

ActiveTrack 5.0

ActiveTrack 5.0はトレースとパラレルに分かれており、車両、ボート、人々などの静止した被写体と動いている被写体の両方のトラッキングに対応しています。スポーツモード、ノーマルモード、シネモードでは、最大飛行速度は12 m/sです。被写体を中心に旋回するにはロールスティックを動かし、被写体からの距離を変更するにはピッチスティックを動かします。また、高度を変更するにはスロットルスティックを動かし、フレームを調整するにはパンスティックを動かします。

ActiveTrack 5.0では機体はDJI Flyの設定に関係なく、障害物を迂回します。

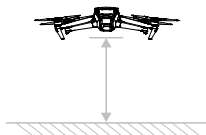
トレース：機体は被写体に向かって一定の角度で、一定の距離と高度を保って被写体をトラッキングします。機体は被写体を前方、後方、左、右、前方対角線左、前方対角線右、後方対角線左、後方対角線右の8方向からトラッキングします。初期設定では方向は後方に設定され、この設定は被写体の移動方向が安定している場合にのみ使用可能です。トラッキングの方向はトラッキング中に調整できます。

パラレル：機体は被写体の側面から一定の角度と距離で被写体をトラッキングします。

ActiveTrackでは、機体は高度2 m～20 m（最適距離は5 m～10 mで最適高度は2 m～10 m）で人をトラッキングしている場合は4 m～20 mの距離を保ち、高度6 m～100 m（最適距離は20 m～50 mで最適高度は10 m～50 m）で車両やボートをトラッキングしている場合は6 m～100 mの距離を保ちます。アクティブトラックを開始したときに距離と高度が範囲を外れている場合は、機体は対応する距離と高度の範囲まで飛行します。最高のパフォーマンスを発揮するために、機体を最適な距離と高度まで飛行させてください。

フォーカストラックの使用

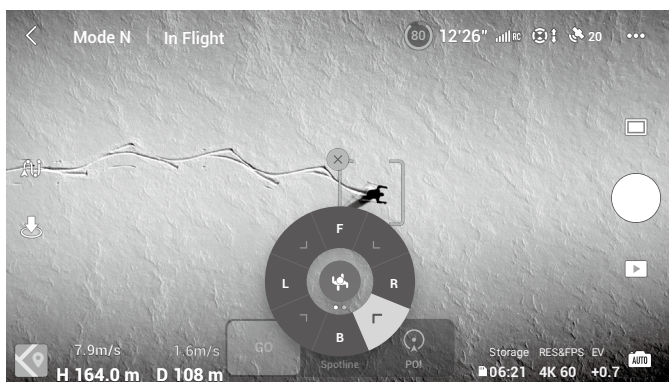
1. 離陸。



2. カメラビューで画面上の被写体の周りにはあるボックスをドラッグするか、DJI Flyアプリの[制御設定]にある[被写体スキャンング]を有効にして、認識された被写体をタップするとフォーカストラックを有効にできます。デフォルトモードはスポットライトです。アイコンをタップして、スポットライト、アクティブトラック、POIを切り替えます。フォーカストラックは3倍ズームに対応しています。ズーム率が高すぎて被写体の認識が困難な場合は、ズーム率は制限されます。[GO]をタップしてフォーカストラックを開始します。



3. アクティブトラックのトレース時にはトラッキング方向は方向ホイールを使用して変更できます。ある一定の時間内に操作が行われなときや画面の他の場所をタップしたときには方向ホイールは最小化されます。方向ホイールが最小化されるとトレースやパラレルが選択できます。トレースが再度選択されるとトラッキングの方向は後方にリセットされます。



4. シャッター／録画ボタンをタップすると、写真を撮影する、もしくは録画を開始します。再生画面で映像を確認できます。

フォーカストラックの終了

DJI Flyで[停止]をタップするか送信機で飛行一時停止ボタンを1回押してフォーカストラックを終了します。

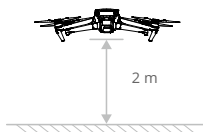
- △
- ・人や動物が走っていたり車両が走行していたりする場所ではフォーカストラックを使用しないでください。
 - ・小さく細い物体（木の枝、送電線など）や、透明な物体（ガラスや水など）がある場所では、フォーカストラックを使用しないでください。
 - ・機体を手動で操縦します。緊急時には[飛行一時停止]ボタンを押すか、DJI Flyで[停止]をタップします。
 - ・以下のような状況でフォーカストラックを実行する場合には、特に注意してください。
 - a. 追尾している対象が水平面上で動いていない。
 - b. 追尾している対象が移動中に形を大きく変える。
 - c. 追尾している対象を長時間にわたって見ることができない。
 - d. 追尾している対象が雪面上で移動している。
 - e. 追尾している対象がその周囲環境と同様な色またはパターンである。
 - f. 照明が非常に暗い（300ルクス未満）、または非常に明るい（10,000ルクス超）場合。
 - ・フォーカストラックの使用に際しては地域のプライバシー法令に必ず従ってください。
 - ・車両、ボート、人々（子供を除く）のみを追尾することを推奨します。他の対象を追尾する場合は、注意して飛行してください。
 - ・対応する動きのある被写体とは、車や小型・中型のヨットなどです。
 - ・遠隔操作のモデルカーやボートを追尾しないでください。
 - ・追尾対象が他の対象に近づくと、追尾対象が誤ってもう一方の対象に切り替わってしまう可能性があります。
 - ・フォーカストラックは、NDフィルターの使用時、5.1K以上または120fps以上の録画時には無効になります。
 - ・ActiveTrackは十分な明るさがない場合、ビジョンシステムが使用不可の場合には使用できません。そのような場合でも静止被写体に対するPOIとSpotlightは使用できますが、障害物検知は使用できません。
 - ・フォーカストラックは機体が地上にあるときには使用できません。
 - ・機体が飛行制限に近い状態で飛行している場合やGEO区域内を飛行している場合、フォーカストラックが正しく機能しないことがあります。

マスターショット

マスターショットは、被写体をフレームの中央にとらえ続けながら、異なるパターンの飛行動作を順番に実行し、シネマティックな短編動画を生成します。

マスターショットの使用

1. 離陸したら、地上から2 m以上の高さでホバリング状態にします。



2. DJI Flyで撮影モードアイコンをタップし、[マスターショット]を選択し、指示に従います。撮影モードの使用方法を理解していること、および周囲に障害物がないことを確認してください。
3. カメラビューで、被写体上のサークルをタップするか、被写体の周りをドラッグして四角で囲み、目的の被写体を選択します。[開始]をタップして録画を開始します。撮影が終了すると機体は元の位置に飛行して戻ります。



4. 動画にアクセスするには、[]をタップします。

マスターショットの終了

飛行一時停止ボタンを1回押すか、DJI Flyで[✕]をタップしてマスターショットを終了します。機体はその場でホバリングします。

- ⚠
- マスターショットは、建物などの障害物がない場所で使用してください。飛行経路上に人間、動物、その他の障害物がないことを必ず確認してください。十分に明るく、環境がビジョンシステムに適しているとき、障害物が検知されると機体はブレーキをかけて、その場でホバリングします。
 - 機体周辺の物に注意し、送信機を使用して機体の衝突を回避してください。
 - 次の状況ではマスターショットを使用しないでください。
 - a. 被写体が長時間遮られているか目視外にある場合。
 - b. 被写体の色や模様が周囲と似ている場合。
 - c. 被写体が空中にある場合。
 - d. 被写体が高速移動する場合。
 - e. 照明が非常に暗い（300ルクス未満）、または非常に明るい（10,000ルクス超）場合。
 - 建物の近くやGNSS信号が弱い場所でマスターショットを使用しないでください。そのような場合は、飛行経路が不安定になります。
 - マスターショットの使用に際しては地域のプライバシー法令に必ず従ってください。

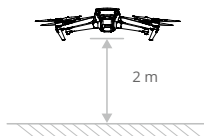
QuickShots

クイックショット撮影モードには、ドローニー、ロケット、サークル、ヘリックス、ブーメラン、アステロイドがあります。Mavic 3 Classicは、選択した撮影モードに従って録画し、短編動画を自動的に生成します。動画は再生画面で表示、編集したり、SNSで共有したりできます。

-  ドローニー：機体は、対象にカメラをロックした状態で後上方に飛行します。
-  ロケット：機体は、カメラを下に向けた状態で上昇します。
-  サークル：機体は、被写体周囲を旋回します。
-  ヘリックス：機体は、被写体周囲をスパイラル状に上昇しながら旋回します。
-  ブーメラン：機体は楕円を描きながら始点から離れる時に上昇し、下降しながら始点に戻るパターンで対象の周りを旋回します。機体の始点は楕円の長軸の一端を形成し、長軸のもう一方の端は始点から見て被写体の反対側にあります。ブーメラン機能を使用する時は十分なスペースを確保してください。機体の周囲は半径30 m以上、上空は10 m以上必要です。
-  アステロイド：機体は後方かつ上方に向かって飛行し、数枚の写真を撮影して、その後開始点まで戻ります。生成された動画は最高地点のパノラマから始まり、下降してくる映像になります。アステロイド機能を使用する時は十分なスペースを確保してください。機体の後方を少なくとも40 m、上方を50 m確保してください。

クイックショットの使用

1. 離陸したら、地上から2 m以上の高さでホバリング状態にします。



2. DJI Flyで撮影モードアイコンをタップし、[クイックショット]を選択し、指示に従います。撮影モードの使用方法を理解していること、および周囲に障害物がないことを確認してください。
3. カメラビューで、被写体上のサークルをタップするか、被写体の周りをドラッグして四角で囲み、目的の被写体を選択します。撮影モードを選択し、[開始]をタップして録画を開始します。



4. 動画にアクセスするには、 をタップします。

クイックショットの終了

飛行一時停止ボタンを1回押すか、DJI Flyで⊗をタップしてクイックショットを終了します。機体はその場でホバリングします。

- ⚠
- クイックショットは、建物などの障害物がない場所で使用してください。飛行経路上に人間、動物、その他の障害物がないことを必ず確認してください。障害物が検知されると機体はブレーキをかけて、その場でホバリングします。
 - 機体周辺の物に注意し、送信機を使用して機体の衝突を回避してください。
 - 次の状況ではクイックショットを使用しないでください。
 - 被写体が長時間遮られているか目視外にある場合。
 - 被写体が機体から50 m以上離れている場合。
 - 被写体の色や模様が周囲と似ている場合。
 - 被写体が空中にある場合。
 - 被写体が高速移動する場合。
 - 照明が非常に暗い（300ルクス未満）、または非常に明るい（10,000ルクス超）場合。
 - 建物の近くやGNSS信号が弱い場所でQuickShotsを使用しないでください。そのような場合は、飛行経路が不安定になります。
 - クイックショットを使用する場合は、必ず現地のプライバシー法令に従ってください。

ハイパーラプス

ハイパーラプス撮影モードには、フリー／サークル／コースロック／ウェイポイントがあります。



フリー

機体は自動的に写真を撮り、タイムラプス動画を生成します。フリーモードは、機体が地上にある間に使用できます。離陸後、送信機を使用して機体の動きやジンバル角度を操作します。フリーを使用するには次の手順に従ってください。

- 撮影間隔、動画撮影時間、最大速度を設定します。画面には写真を撮影する枚数、録画にかかる時間が表示されます。
- シャッター／録画ボタンをタップして開始します。

サークル

機体は、選択した対象の周囲を飛行しながら自動的に写真を撮影し、タイムラプス動画を生成します。サークルを使用するには次の手順に従ってください。

1. 撮影間隔、動画撮影時間、最大速度を設定します。サークルは、時計回りか反時計回りのどちらで飛行するか選択できます。画面には写真を撮影する枚数、録画にかかる時間が表示されます。
2. 画面で対象を選択してください。パンスティックとジンバルダイヤルを使用してフレームを調整します。
3. シャッター／録画ボタンをタップして開始します。

コースロック

コースロックは2つの方法で使用できます。一つ目の方法は、機体の向きが固定され、対象は選択できません。二つ目の方法は、機体の向きが固定され、機体は選択された対象の周囲を飛行します。コースロックを使用するには下記の手順に従ってください。

1. 撮影間隔、動画撮影時間、最大速度を設定します。画面には写真を撮影する枚数、録画にかかる時間が表示されます。
2. 飛行方向を設定します。
3. 必要な場合には被写体を選択します。ジンバルダイヤルとパンスティックを使用してフレームを調整します。
4. シャッター／録画ボタンをタップして開始します。

ウェイポイント

機体は2～5カ所のウェイポイント（経由点）の飛行経路を移動しながら自動的に写真を撮影し、タイムラプス動画を生成します。機体は、ウェイポイント1～5、または5～1を順番に飛行できます。ウェイポイントを使用するには次の手順に従ってください。

1. 任意のウェイポイントを設定します。
2. 撮影間隔、動画撮影時間、最大速度を設定します。画面には写真を撮影する枚数、録画にかかる時間が表示されます。
3. シャッターボタンをタップすると、開始します。

機体はタイムラプス動画を自動的に生成し、再生で表示できます。DJI Flyアプリの[システム設定]>[カメラ]ページで出力画質と写真タイプを選択できます。Mavic 3 Classicはハイパーラプスの高速構成機能に対応しています。出力画質で、[プレビュー]を選択します。Mavic 3 Classicは安定化と明るさスムージングは実行せず、効果プレビューフィルムの合成のみを行います。これにより構成時間が節約できます。後で元のフィルムを高画質フィルムに合成することができます。

- ⚠
- 最適なパフォーマンスを実現するには、50 m以上の高度でハイパーラプスを使用し、撮影間隔時間を2秒以上に設定することを推奨します。
 - 機体から安全な距離（15 m以上）で、動かない対象（高層の建物、山岳地形など）を選択することを推奨します。機体に近すぎる被写体を選択しないでください。
 - 十分に明るく、環境がビジョンシステムに適しているとき、ハイパーラプス使用中に障害物が検知されると機体はブレーキをかけて、その場でホバリングします。ハイパーラプス使用中に明るさが不十分になるか環境がビジョンシステムに適さなくなると、機体は障害物回避が動作せずに撮影を続けます。慎重に飛行してください。
 - 機体は25枚以上の写真を撮影した場合のみ動画を生成します。これは1秒の動画を生成するために必要な枚数です。送信機を操作した場合、またはモードが予期せず終了した場合（ローバッテリーRTHが起動された場合など）、動画は生成されません。
-

クルーズコントロール

クルーズコントロール機能により、状況が許せば遠隔操作をしている機体の現在の操作スティック入力をロックできるようになります。操作スティックを連続して操作することなく、現在の操作スティック入力に対応する速度で飛行し、操作スティック入力を増やすことにより旋回上昇などの、より高度なカメラ動作に対応します。

クルーズコントロールの使用

1. クルーズコントロールボタンを設定します

DJI Flyアプリに入り、[システム設定]、[制御]を選択し、次にDJI RC送信機のC1またはC2ボタンを設定するか、RC-N1送信機のFnボタンをクルーズコントロールに設定します。

2. クルーズコントロールに入ります

操作スティックを任意の方向に押し、クルーズコントロールボタンを同時に押します。操作スティックの入力に従い、機体は現在の速度で飛行します。操作スティックを離しても、自動的に中央に戻ります。操作スティックが中央に戻る前に、クルーズコントロールボタンを再度押すと、機体は現在の操作スティックの入力に基づいて飛行速度をリセットします。操作スティックが中央に戻った後に操作スティックを押すと、機体はその前の速度に基づいて増加した速度で飛行します。この場合は、クルーズコントロールボタンを再度押すと、機体は増加した速度で飛行します。

3. クルーズコントロールの終了

操作スティックの入力がない状態でクルーズコントロールボタンを押すか、送信機の飛行一時停止ボタンを押すか、またはクルーズコントロールを無効にすることによりクルーズコントロールを終了します。

-
- ⚠
- ・クルーズコントロールは、ノーマル、シネ、スポーツモード/APAS、ハイパーラプスのフリーモード、Spotlightで使用可能です。
 - ・クルーズコントロールは操作スティックの入力なしでは開始できません。
 - ・クルーズコントロールは、最大高度付近や最大距離付近では自動的に開始／終了することができません。
 - ・クルーズコントロールは、機体が発信機またはDJI Flyアプリに未接続のときは自動的に開始／終了することができません。
 - ・クルーズコントロールは、機体が障害物を検知しその場でホバリングした後では、自動的に開始／終了することができません。
 - ・RTH中または自動着陸中は、機体をクルーズコントロールに移行することも自動的に終了することもできません。
 - ・クルーズコントロールはフライトモードを切り替えたとき、自動的に終了します。
 - ・クルーズコントロールの障害物回避は現在のフライトモードに従います。慎重に飛行してください。
-

高度操縦支援システム 5.0 (APAS 5.0)

高度操縦支援システム 5.0 (APAS 5.0) 機能は、ノーマルモードとシネモードで使用できます。APASが有効な場合、機体はユーザーからの操作に反応し続け、操作スティックによる入力情報と飛行環境を考慮して経路を計画します。APASを使用すると、障害物の回避が容易になります。その結果、より滑らかな映像が実現し、優れた飛行体験を提供します。

操作スティックを任意の方向に倒したままにすると、機体は、障害物の上方／下方／左／右を飛行することにより障害物を回避します。障害物回避中に、機体は操作スティックの入力に応答することもできます。

APASの有効時、送信機の飛行一時停止ボタンを押すか、DJI Flyの画面でタップして機体を停止させることができます。機体は3秒間ホバリングして、パイロットからのさらなる操作入力を待ちます。

APASを有効化するには、DJI Flyを開き、[システム設定]から[安全]に進み、[迂回]を選択してAPASを有効化します。

迂回の使用時にはノーマルモードまたは高度迂回モードを選択します。高度迂回モードでは、機体は障害物を回避しながら、より速く、よりスムーズに飛行して、障害物のすぐ近くを飛行することができます。一方、障害物と衝突するリスクが高まります。慎重に飛行してください。

高度迂回モードは以下の状況では正常に動作しません：

1. 迂回の使用時、障害物のそばを飛行中に機体の向きが急速に変化する場合。
2. 林冠や茂みのような狭い障害物の中を高速で飛行するとき。
3. 小さくて検知できない障害物付近を飛行するとき。
4. プロペラガードを装着して飛行するとき。

着陸保護

着陸保護は、障害物回避が迂回またはブレーキに設定され、スロットルスティックを下に引いて機体を着陸させた場合に有効になります。機体が着陸を開始すると、着陸保護が有効になります。

1. 着陸保護中、地面が着陸に適していると機体が判断すると、慎重に着陸します。
2. 地面が着陸に適さないと判断されると、機体は0.8 m未満まで下降してホバリングします。スロットルスティックを5秒超押し下げると、機体は障害物回避が動作せずに着陸します。

- ⚠️
- ・ビジョンシステムが利用可能な場合、必ずAPASを使用するようにしてください。飛行経路に、人、動物、表面積の小さい物体（木枝など）、透明な物体（ガラスや水など）がないことを必ず確認してください。
 - ・下方ビジョンシステムが利用可能であるかGNSS信号が強いときにはAPASを必ず使用するようにしてください。水や雪で覆われたエリアの上を機体が飛行している場合、APASが正しく機能しないことがあります。
 - ・非常に暗い（300ルクス未満）環境や非常に明るい（10,000ルクス超）環境で飛行させる場合は、特に注意してください。
 - ・DJI Flyに注意を払い、APASが正常に作動しているかを確認してください。
 - ・機体が飛行制限に近い状態で飛行している場合やGEO区域内を飛行している場合、APASが正しく機能しないことがあります。

フライトレコーダー

フライトテレメトリ、機体のステータス情報、その他のパラメーターなどの飛行データは、機体内蔵のデータレコーダーに自動的に保存されます。DJI Assistant 2（一般向けドローン用）を使用して、データにアクセスできます。

クイック転送

Mavic 3 ClassicはWi-Fi経由でモバイル端末に直接接続できるため、RC-N1送信機を必要とせずにDJI Flyアプリを介して機体からモバイル端末に写真や動画をダウンロードできます。最大80 MB/sの伝送速度で、より高速かつ便利なダウンロードが楽しめます。

使用方法

方法1：モバイル端末が送信機に接続されていない場合

1. 機体の電源を入れて、機体の自己診断テストが完了するまで待ちます。
2. モバイル端末でBluetoothとWi-Fiが有効になっていることを確認してください。DJI Flyを起動すると、機体に接続するためのプロンプトが自動的に表示されます。
3. [接続]をタップします。接続に成功すると、機体のファイルにアクセスでき、高速ダウンロードが可能になります。

方法2：モバイル端末が送信機に接続されている場合

1. 機体が送信機を介してモバイル端末に接続されており、モーターが始動していないことを確認してください。
2. モバイル端末でBluetoothとWi-Fiを有効にします。
3. DJI Flyを起動し、再生画面に入り、右上のをタップすると、機体のファイルにアクセスでき、高速ダウンロードが可能になります。

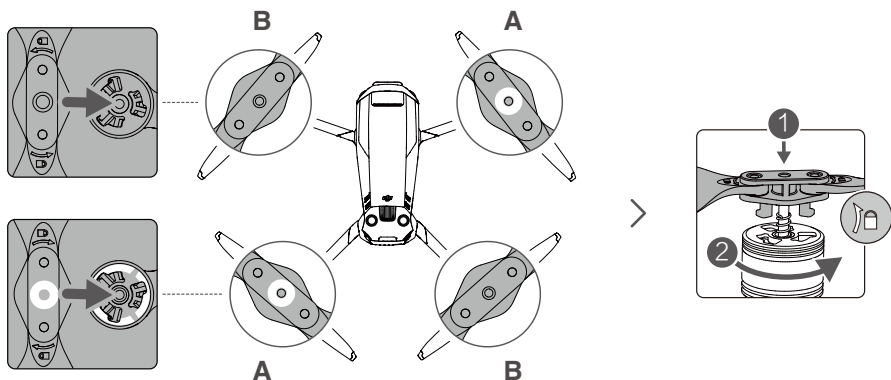
- ⚠️
- ・最大ダウンロード速度は、5.8 GHz周波数が法律および規制によって許可されている国や地域で、5.8 GHz周波数帯域とWi-Fi 6の接続に対応したデバイスを、機体の内部ストレージを使用した映像で、干渉や障害物のない環境で使用する場合にのみ実現できます。5.8 GHzが現地の規制で許可されていない場合（日本など）、ユーザーのモバイル端末は5.8 GHzの周波数帯域に対応しないか、強い干渉が受ける可能性があります。このような状況では、クイック転送は2.4 GHz周波数帯域を使用して、最大ダウンロード速度は10 MB/sに低下します。
 - ・クイック転送を使用する前に、モバイル端末でBluetoothとWi-Fiおよび位置情報サービスが有効になっていることを確認してください。
 - ・クイック転送を使用する場合、接続するためにモバイル端末の設定ページでWi-Fiパスワードを入力する必要はありません。DJI Flyを起動すると、機体に接続するためのプロンプトが表示されます。
 - ・干渉や障害物のない環境でクイック転送を使用し、無線ルーター、Bluetoothスピーカー、ヘッドホンなどの干渉源に近づかないでください。

プロペラ

DJI Mavic 3 Classicの低ノイズ クイックリリース プロペラには2種類あり、それぞれ別の方向に回転するように設計されています。記載されているマークは、どのモーターにどのプロペラを取り付けるべきかを示しています。指示に従ってプロペラとモーターが合致していることを必ず確認してください。

プロペラの取り付け

マークのあるプロペラは、同じくマークのあるモーターに取り付けます。マークのないプロペラは、同じくマークのないモーターに取り付けます。各プロペラをモーターに押し込みながら、固定されるまで回転させます。



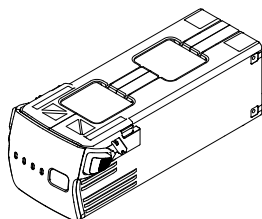
プロペラの取り外し

プロペラを押し込みながら、ロック解除方向に回します。

- ⚠️ • プロペラのブレードの先端は鋭利です。注意して扱ってください。
- DJI公式のプロペラのみを使用してください。複数の種類のプロペラを一緒に使用しないでください。
- 必要があればプロペラを別途購入してください。
- 飛行前に、毎回プロペラが正しくしっかりと取り付けられていることを確認してください。
- 各飛行前に、すべてのプロペラが良好な状態であることを確認してください。古くなったり、欠けたり、損傷したプロペラは使用しないでください。
- 怪我を避けるために、回転中のプロペラやモーターから離れてください。
- 輸送または保管中にプロペラをひねったり、折り曲げたりしないでください。
- モーターがしっかりと取り付けられ、スムーズに回転することを確認してください。モーターが止まって自由に回転しない場合は、直ちに機体を着陸させてください。
- モーターを改造しないでください。
- 飛行後、モーターが高温になっていることがあるため、モーターに触れたり、手や体が接触したりしないようにしてください。
- モーターまたは機体の通気口を塞がないでください。
- 電源を入れた時、ESCの動作音に異常がないことを確認してください。

インテリジェント フライトバッテリー

DJI Mavic 3 Classicのインテリジェント フライトバッテリーは、スマートな充放電機能を搭載した15.4 V、5000 mAhバッテリーです。



バッテリーの機能

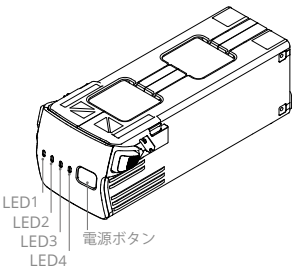
1. バッテリー残量表示：LEDインジケーターは、現在のバッテリー残量を表示します。
2. 自動放電機能：膨張を防ぐため3日間アイドリング状態が続くときにはバッテリーはバッテリー残量の96%まで自動的に放電し、9日間アイドリング状態が続くときにはバッテリー残量の60%まで自動的に放電します。放電の過程でバッテリーから多少の熱が放出されますが、これは正常な状態です。
3. バランス充電：充電時、バッテリーセルの電圧は自動でバランス調整されます。
4. 過充電保護：バッテリーが完全に充電されると、充電は自動的に停止します。
5. 温度検知：バッテリー自体の保護のため、温度が5℃～40℃の場合にのみバッテリーが充電されます。
6. 過電流保護：過電流が検知されるとバッテリーの充電は停止されます。
7. 過放電保護：使用されていない場合、バッテリーの放電は自動的に停止して過放電を防ぎます。使用されている場合、バッテリーの過放電保護は無効です。
8. 短絡保護：短絡が検知されると、電源が自動的に切断されます。
9. バッテリーセルの損傷保護：DJI Flyは、損傷したバッテリーセルを検知すると警告プロンプトを表示します。
10. ハイバネーション モード：20分間何もしないと、省電力のためにバッテリーの電源が自動で切れます。6時間のアイドリング状態後、バッテリー残量が5%未満の場合、バッテリーはハイバネーション モードに入り、過放電を防止します。ハイバネーション モードでは、バッテリー残量インジケーターは点灯しません。バッテリーを充電すると、ハイバネーション モードから復帰します。
11. 通信：バッテリーの電圧、容量、電流に関する情報は、機体に送信されます。

 ・ご使用の前に、安全に関するガイドラインとバッテリーのステッカーをご確認ください。ユーザーはすべての操作と使用に対する責任を負うものとします。

バッテリーの使用

バッテリー残量の確認

電源ボタンを1回押して、バッテリー残量を確認します。



バッテリー残量LED				
○：LED点灯 ☀：LED点滅 ○：LED消灯				
LED1	LED2	LED3	LED4	バッテリー残量
○	○	○	○	バッテリー残量 ≥ 88%
○	○	○	☀	75% ≤ バッテリー残量 < 88%
○	○	○	○	63% ≤ バッテリー残量 < 75%
○	○	☀	○	50% ≤ バッテリー残量 < 63%
○	○	○	○	38% ≤ バッテリー残量 < 50%
○	☀	○	○	25% ≤ バッテリー残量 < 38%
○	○	○	○	13% ≤ バッテリー残量 < 25%
☀	○	○	○	0% ≤ バッテリー残量 < 13%

電源のオン／オフ

電源ボタンを1回押し、次に2秒間長押しするとバッテリーの電源オン／オフを切り替えられます。機体の電源を入れると、バッテリー残量LEDにバッテリー残量が表示されます。

低温注意

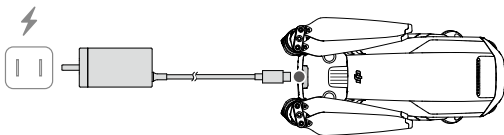
- 1. 低温環境（-10℃ ～5℃）で飛行すると、バッテリー容量は著しく減少します。バッテリーを暖める場合、機体をその場でホバリングさせることを推奨します。離陸の前には、必ずバッテリーが完全に充電されていることを確認してください。
- 2. バッテリーは極低温環境（-10℃より低い）では使用できません。
- 3. 低温環境でDJI Flyアプリがローバッテリー残量警告を表示した場合は、ただちに飛行を終了してください。
- 4. バッテリーが本来の性能を発揮するために、バッテリー温度を20℃以上に維持してください。
- 5. 低温環境でバッテリー容量が減少すると、機体の風圧抵抗の性能が低下するため、細心の注意が必要です。慎重に飛行してください。
- 6. 海拔の高いところでの飛行にはさらに注意が必要です。

バッテリーの充電

飛行前に毎回インテリジェント フライトバッテリーを完全に充電します

DJI 65W ポータブル充電器の使用

- 1. DJI 65W ポータブル充電器をAC電源（100-240V、50/60Hz）に接続します。
- 2. バッテリーの電源を切った状態でバッテリー充電ケーブルを使用して、機体を充電器に取り付けます。
- 3. 充電中、バッテリー残量LEDは現在のバッテリー残量を表示します。
- 4. すべてのバッテリー残量LEDがオフになったら、インテリジェント フライトバッテリーの充電は完了です。バッテリーが完全に充電されたら、充電器を取り外します。



- ⚠ 飛行直後はインテリジェント フライトバッテリーを充電しないでください。高温になっている場合があります。常温になるまで待って、充電してください。
- バッテリーセルの温度が動作範囲（5℃～40℃）内でない場合、充電器はバッテリーの充電を停止します。推奨する充電温度範囲は22℃～28℃です。
- バッテリーを良好な状態に保つために、少なくとも3カ月に1回はバッテリーを完全に充電してください。
- DJIはサードパーティー製の充電器による損傷については、いかなる責任も負いません。

- 💡 輸送前に、インテリジェント フライトバッテリーを30%以下に放電しておくことをお勧めします。こうするには、残りの充電が30%未満になるまで機体を屋外で飛行します。

下の表は、充電中のバッテリー残量を示しています。

LED1	LED2	LED3	LED4	バッテリー残量
☀	☀	○	○	0% <バッテリー残量 ≤ 50%
☀	☀	☀	○	50% <バッテリー残量 ≤ 75%
☀	☀	☀	☀	75% <バッテリー残量 <100%
○	○	○	○	充電完了

バッテリー保護メカニズム

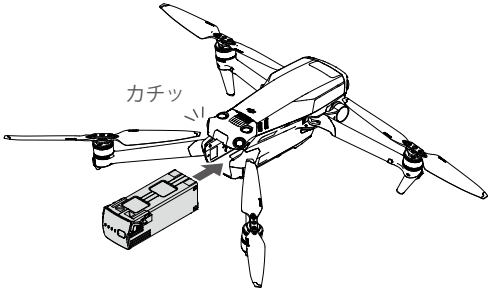
バッテリーLEDインジケーターは、充電の異常状態で発動したバッテリー保護プロンプトを表示できます。

バッテリー保護メカニズム					
LED1	LED2	LED3	LED4	点滅パターン	状態
○	☀	○	○	LED2が毎秒2回点滅	過電流検知
○	☀	○	○	LED2が毎秒3回点滅	短絡検知
○	○	☀	○	LED3が毎秒2回点滅	過充電検知
○	○	☀	○	LED3が毎秒3回点滅	充電器の過電圧検知
○	○	○	☀	LED4が毎秒2回点滅	充電温度が低すぎる
○	○	○	☀	LED4が毎秒3回点滅	充電温度が高すぎる

バッテリー保護メカニズムが有効な場合、充電を再開するにはバッテリーを充電器から取り外してからもう一度挿入する必要があります。充電温度が異常な場合は、充電温度が正常に戻るまでお待ちください。バッテリーは自動的に充電を再開するので、充電器のプラグ抜き差しは必要ありません。

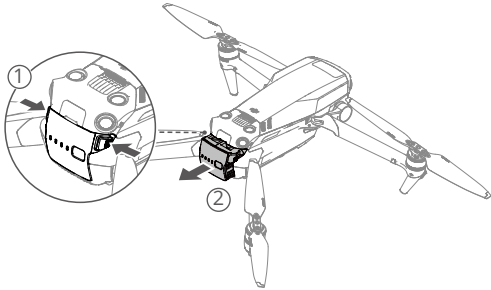
インテリジェント フライトバッテリーの装着

インテリジェント フライトバッテリーを機体のバッテリー収納部に装填します。安全に取り付けられ、バッテリーバックルでカチッと音がなったことを確認します。



インテリジェント フライトバッテリーの取り外し

インテリジェント フライトバッテリーの側面にあるバッテリーバックルの突起部分を押し、収納部から取り外します。

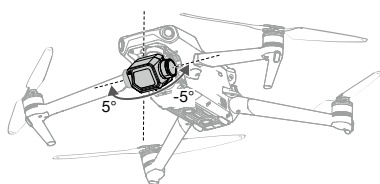
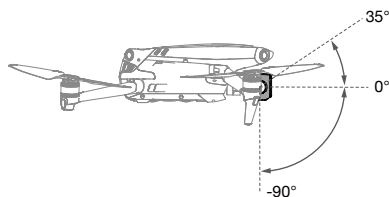


- ⚠
- 機体の電源が入っているときにバッテリーを取り出さないでください。
 - バッテリーがしっかりと取り付けられていることを確認してください。

ジンバル&カメラ

ジンバルの特徴

DJI Mavic 3 Classicの3軸ジンバルは、カメラを安定させ、これによりクリアで安定した画像や動画を撮影できます。チルト制御範囲は-90°～+35°、パン制御範囲は-5°～+5°です。



送信機のジンバルダイヤルを使用して、カメラのチルトを操作します。または、DJI Flyでカメラレビューに入ります。カメラ調整バーが表示されるまで画面を長押しします。バーを上下にドラッグしてチルトを操作し、左右にドラッグしてパンを操作します。

ジンバル操作モード

2種類のジンバル操作モードがあります。DJI Flyの各操作モードを切り替えます。

フォローモード：ジンバルの向きと機体の前面の角度は、常に一定の角度を保ちます。

FPVモード：ジンバルが機体の動きと同調して、FOV視点の飛行体験を提供します。

-
- ⚠
- 機体の電源をオンにした状態でジンバルを押したり叩いたりしないでください。離陸時にジンバルを保護するために、平らで開けた場所から離陸させてください。
 - 衝突や衝撃によりジンバルの精密性が損なわれるおそれがあります。損傷があると、ジンバルが異常な動きをすることがあります。
 - ジンバル（特にジンバルのモーター）に埃や砂が付着しないようにしてください。
 - 以下の状況ではジンバルモーターは保護モードに切り替わることがあります。
 - 機体が平らでない地面に置かれているか、ジンバルの動きが妨害されている場合。
 - 衝突時など、ジンバルに外からの過剰な力を受けた場合。
 - ジンバルの電源をオンにした後、ジンバルに外力をかけないでください。ジンバルに余計な負荷をかけないでください。ジンバル動作の不具合や、モーターの損傷を引き起こすおそれがあります。
 - 機体の電源をオンにする前に、必ずストレージカバーを取り外してください。また、機体を使用しないときは、必ずストレージカバーを取り付けてください。
 - 濃霧や雲の中を飛行すると、ジンバルが湿気を帯びて一時的に不具合が生じることがあります。ジンバルが乾くと機能は正常に戻ります。
-

カメラの特徴

DJI Mavic 3 Classicは、4/3型CMOSセンサーHasselblad L2D-20cカメラを使用し、20 MP 写真撮影や5.1K/50fps、DCI 4K/120fpsのH.264/H.265フォーマットの動画を撮影できます。このカメラは10ビットのD-Log動画撮影にも対応し、f/2.8～f/11の絞り値の調整でき、1 m～∞（無限遠）までの距離の撮影ができます。

-
- ⚠ • 使用中と保管中には、温度と湿度がカメラに適したものであることを確認してください。
- レンズクリーナーを使用してレンズを清掃し、損傷を防いでください。
- カメラの通気口をふさがないでください。熱が発生して、使用者が負傷したり機器が損傷したりするおそれがあります。
-

写真と動画の保存とエクスポート

写真および動画の保存

DJI Mavic 3 Classicは、8 GBの内部ストレージを搭載し、microSDカードを使用でき、写真や動画を保存できます。高解像度動画データの保存には高速の読み書き速度が必要なため、SDXCまたはUHS-I規格のmicroSDカードが必要です。推奨microSDカードに関しては、仕様のセクションを参照してください。

写真と動画のエクスポート

写真と動画をスマートフォンにエクスポートするにはQuickTransferを使用します。機体をパソコンと接続するかカードリーダーを使用して写真と動画をパソコンにエクスポートします。

-
- ⚠ • 機体の電源がオンのときは、機体からmicroSDカードを抜かないでください。microSDカードが損傷する可能性があります。
- カメラシステムが安定して動作するように、1回の動画撮影は30分までに制限されています。
- 使用する前にカメラ設定を確認し、必要に応じて設定してください。
- 大切な写真や動画を撮影する前に、いくつかの画像を試し撮りし、カメラが正しく動作することを確認してください。
- 機体の電源がオフの場合、写真や動画をカメラから転送／コピーすることはできません。
- 機体の電源を正しく切ってください。カメラのパラメーターが正しく保存されず、記録された動画が破損する可能性があります。画像や動画の記録の失敗、機械が読み取れない 방식으로記録された画像や動画の不具合に対し、DJIは一切責任を負いません。
-

送信機

本セクションでは、送信機の各機能について説明します。また、機体とカメラの操作手順についても説明します。

送信機

DJI RC

DJI Mavic 3 Classicと組み合わせて使用すると、DJI RC送信機はO3+ 動画伝送が機能し、周波数帯域 2.4 GHzと5.8 GHzの両方で動作します。（日本国内：2.4 GHzのみ利用可能）最適な伝送チャンネルを自動選択し、最大1080p/60fps HDのライブビューを機体から最大15 km先の送信機に伝送できます（FCC規格に準拠し、電波干渉のない広く開けたエリアで測定。日本の場合、最大8 km）。DJI RCには、5.5インチのタッチ画面（1920×1080ピクセルの解像度）に加えて、様々な制御とカスタムボタンも装備されているため、機体を簡単に制御でき、遠隔から機体設定を変更できます。

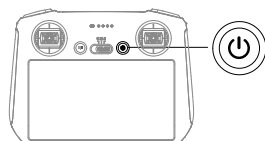
18.72 Whの電力を供給する5200 mAhの内蔵バッテリーによって、送信機の駆動時間は最大4時間になります。DJI RCには、Wi-Fi接続、内蔵GNSS（GPS+Beidou+Galileo）、Bluetooth、内蔵スピーカー、取り外し可能な操作スティック、microSDストレージなど、たくさんの機能があります。

送信機の使用

電源のオン／オフ

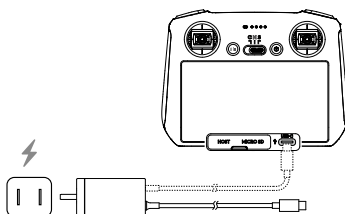
電源ボタンを1回押すと、現在のバッテリー残量を確認します。

ボタンを押し、再度長押しすると、送信機の電源オン／オフを切り替えられます。



バッテリーの充電

USB-Cケーブルを使用して、USB充電器を送信機のUSB-Cポートに接続します。バッテリーは、最大充電電力15 W (5V/3A) で約1時間30分で完全に充電できます。



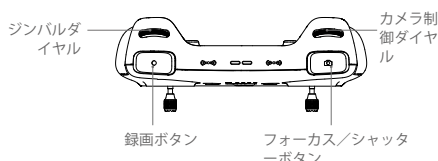
ジンバル&カメラの操作

フォーカス／シャッターボタン：半押しでオートフォーカスが作動し、全押しで写真を撮影します。

録画ボタン：1回押すと、録画を開始／停止します。

カメラ制御ダイヤル：デフォルトではズームの調整に使用します。ダイヤル機能は、焦点距離、EV、絞り、シャッター速度、ISOの調整に設定できます。

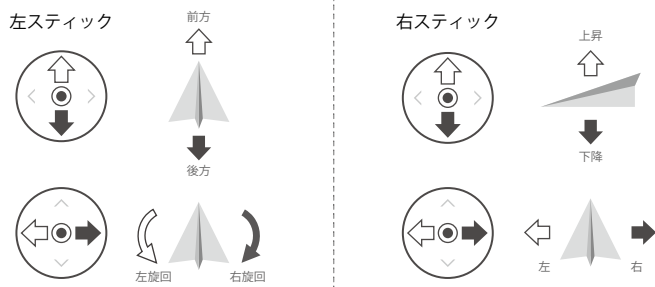
ジンバルダイヤル：ジンバルのチルトを調整します。



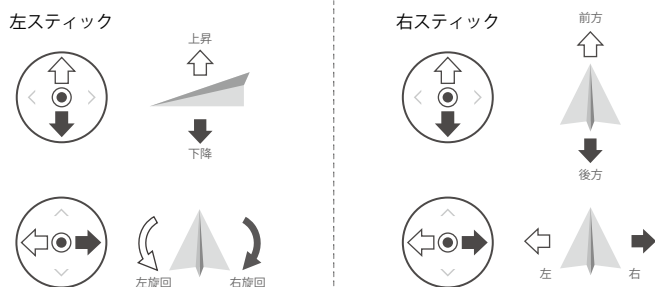
機体の制御

あらかじめプログラムされている3つのモード（モード1、モード2、モード3）を使用でき、DJI Flyでカスタムモードを設定することもできます。初期状態のモードはモード2です。

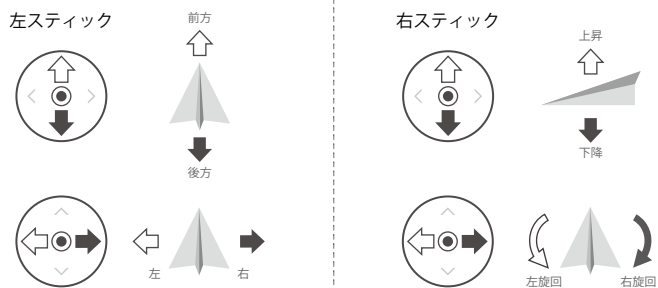
モード1

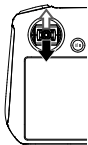
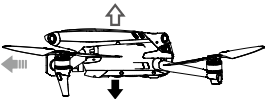
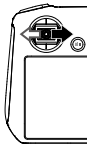
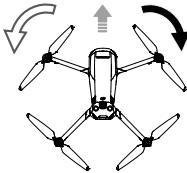
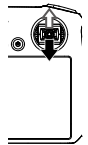
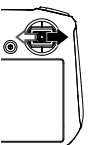
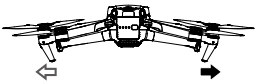


モード2



モード3



送信機 (モード2)	機体 ( は機首方向を示す)	備考
		左スティックを上下に倒して（スロットルスティック）、機体の高度を変更します。上昇させるにはスティックを上倒し、下降させるには下倒しします。スティックが中央位置から離れるほど、機体の高度変更速度が速くなります。機体の高度を急激に変えないよう、操作スティックは優しくゆっくりと動かしてください。
		左スティックを左右に動かして（パンスティック）、機体の進行方向を制御します。スティックを左に倒すと機体は反時計回りに回転し、右に倒すと時計回りに回転します。スティックが中央位置から離れるほど、機体の回転速度が速くなります。
		右スティックを上下に倒すと（ピッチスティック）、機体のピッチを変えられます。スティックを上倒すと前進し、下倒すと後進します。スティックが中央位置から離れるほど、飛行速度が上がります。
		右スティックを左右に倒すと（ロールスティック）、機体を左右に移動できます。左に倒すと左に飛び、右に倒すと右に飛びます。スティックが中央位置から離れるほど、飛行速度が上がります。

フライトモードスイッチ

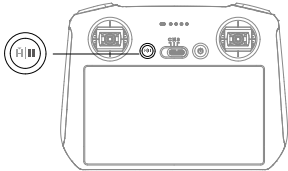
このスイッチを切り替えて、フライトモードを選択します。

位置	フライトモード
S	スポーツモード
N	ノーマルモード
C	シネモード



飛行一時停止／RTHボタン

一度押すと、機体の動作にブレーキがかかり、その場でホバリングします。送信機からピープ音が鳴るまでボタンを長押ししてReturn to Home（RTH）を開始すると、機体は最後に記録されたホームポイントに戻ります。再度このボタンを押すと、RTHをキャンセルし機体を制御できるようになります。



カスタムボタン

DJI Flyの[システム設定]に移動し、[制御]を選択してカスタムボタンC1およびC2の機能を設定します。

ステータスLEDとバッテリー残量LEDの説明

ステータスLED

点滅パターン		説明
——	赤色点灯	機体との接続が切断
.....	赤色点滅	機体のバッテリー残量が低下
——	緑色点灯	機体と接続完了
.....	青色点滅	送信機は機体にリンク中
——	黄色点灯	ファームウェア更新に失敗
——	青色点灯	ファームウェア更新に成功
.....	黄色に点滅	送信機のバッテリー残量が低下
.....	水色に点滅	操作スティックが中央位置にない

バッテリー残量LED

点滅パターン				バッテリー残量
				75%～100%
				50%～75%
				25%～50%
				0%～25%

送信機のアラート

エラーや警告がある場合、送信機からアラート音（ピープ音）が鳴ります。タッチ画面またはDJI Fly内でプロンプトが表示される場合は注意してください。上から下にスワイプして[ミュート]を選択すると、アラート音を無効になります。もしくは、音量バーを0にスライドすると、一部の警告アラート音が無効になります。

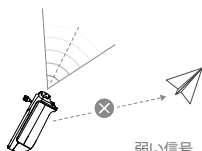
送信機はRTH中にアラート音を鳴らします。RTH中のアラート音はキャンセルできません。送信機は、送信機のバッテリー残量が低下（6%～10%）するとアラート音が鳴ります。電源ボタンを押すと、バッテリー残量低下のアラート音はキャンセルできます。バッテリー残量が5%未満になると、アラート音が鳴り、重度のバッテリー残量低下をお知らせします。このアラート音はキャンセルできません。

最適な伝送範囲

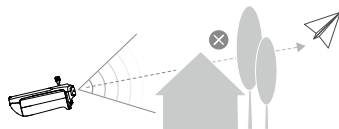
機体と送信機の信号は、下の図に示すように送信機が機体の方を向いている場合に最も信頼性が高くなります。



最適な伝送範囲



弱い信号



- 送信機と同じ周波数で動作する他のワイヤレス端末を使用しないでください。送信機が信号干渉を受ける場合があります。
- 飛行中において送信信号が弱い場合、DJI Flyにプロンプトが表示されます。アンテナを調整して、機体が最適な伝送範囲内にあるようにしてください。

送信機のリンク

送信機をコンボとして購入した場合は、送信機はすでに機体にリンクされています。送信機と機体がリンクされていない場合は、以下の手順に従って、アクティベーションした後送信機と機体をリンクさせてください。

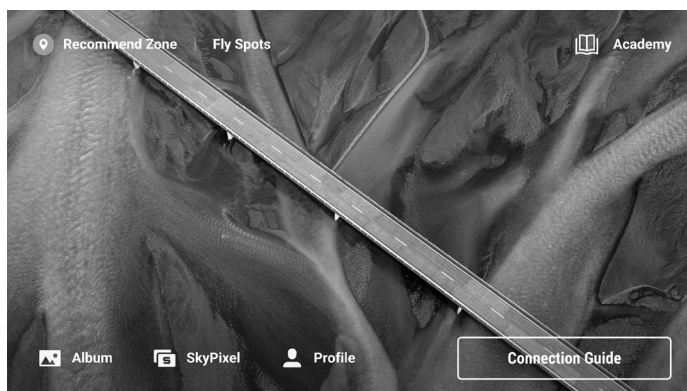
1. 機体と送信機の電源を入れます。
2. DJI Flyを起動します。
3. カメラビューで●●●をタップし、[制御]を選択し[機体とペアリングする（リンク）]を選択します。
4. 機体の電源ボタンを4秒以上押し続けます。機体はリンクの準備ができると、ピープ音を1回鳴らします。リンクが確立すると、機体は2回ピープ音を鳴らし、送信機のバッテリー残量LEDが点灯します。

-
- ☀️
- リンクは、送信機が機体から0.5 m以内にある状態で行ってください。
 - 新しい送信機を同じ機体にリンクさせると、すでにリンクされていた送信機は自動でリンク解除されます。
 - 最適な動画伝送には、送信機のBluetoothとWi-Fiをオフにします。

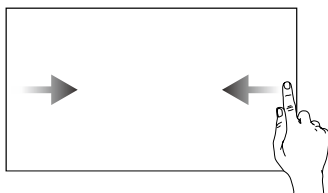
-
- ⚠️
- 各飛行の前に送信機を完全に充電してください。送信機は、バッテリー残量が低下するとアラート音が鳴ります。
 - 送信機の電源がオンの状態で5分間操作をしないと、アラートが鳴ります。6分経過すると、自動的に送信機の電源が切れます。操作スティックを動かすか、任意のボタンを押すと、キャンセルされます。
 - バッテリーを良好な状態に保つために、少なくとも3ヶ月に1回はバッテリーを完全に充電してください。
-

タッチ画面の操作

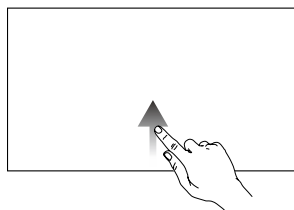
ホーム



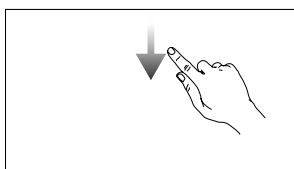
操作



画面の左または右から中央にスワイプすると、前の画面に戻ります。

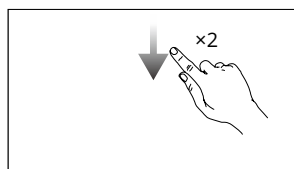


画面の下部から上にスワイプすると、DJI Flyに戻ります。



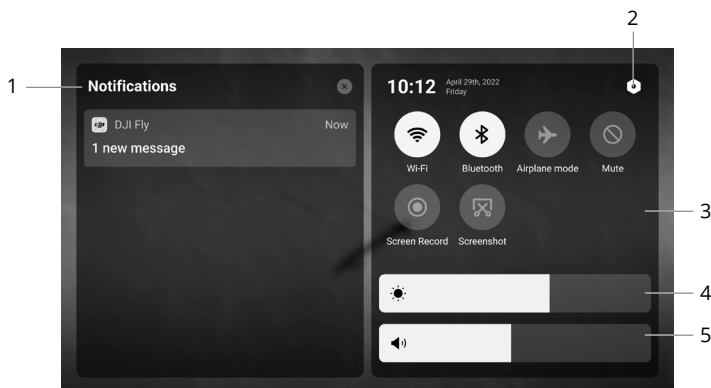
DJI Flyで、画面の上部から下にスワイプすると、ステータスバーが開きます。

ステータスバーには、時間、Wi-Fi信号、送信機のバッテリー残量などが表示されます。



DJI Flyで、画面の上部から下に2回スワイプすると、[クイック設定]が開きます。

クイック設定



1. 通知

タップするとシステム通知を確認できます。

2. システム設定

をタップすると、[システム設定]にアクセスし、Bluetooth、音量、ネットワークなどを設定します。また、ガイドを表示して、制御とステータスLEDの詳細を確認することもできます。

3. ショートカット

◁：タップしてWi-Fiを有効または無効にします。長押しすると設定画面に移動し、Wi-Fiネットワークを接続または追加します。

✳️：タップすると、Bluetoothを有効または無効にします。長押しすると設定画面に移動し、近くのBluetoothデバイスと接続します。

✈️：タップすると、[機内モード]が有効になります。Wi-FiとBluetoothが無効になります。

🔕：タップするとシステム通知がオフになり、すべてのアラート音が無効になります。

📹：タップすると、画面収録が開始します。この機能は、microSDカードを送信機のmicroSDスロットに挿入した後に使用できるようになります。

📸：タップすると、スクリーンショットを撮ります。この機能は、microSDカードを送信機のmicroSDスロットに挿入した後に使用できるようになります。

📶：モバイルデータ。

4. 明るさの調整

バーをスライドして画面の明るさを調整します。

5. 音量の調整

音量を調整するには、バーをスライドします。

高度な機能

コンパスのキャリブレーション

電波干渉のある場所で送信機を使用した後は、コンパスのキャリブレーションが必要な場合があります。送信機のコンパスをキャリブレーションする必要がある場合、警告プロンプトが表示されます。

警告メッセージをタップし、キャリブレーションを開始してください。それ以外の場合は、以下の手順に従い送信機のキャリブレーションを行います。

1. 送信機の電源を入れ、[クイック設定]に移動します。
2. をタップしてシステム設定に入り、下にスクロールして[コンパス]をタップします。
3. 画面上の指示に従ってコンパスをキャリブレーションしてください。
4. キャリブレーションが成功すると、プロンプトが表示されます。

DJI RC-N1

送信機は、DJIの長距離伝送技術を採用しており、最大伝送距離は15 kmです（日本国内では8 km）。最大1080p/60fps（解像度はモバイル端末の種類に依存）の動画を、機体からモバイル端末のDJI Flyへと送信し、表示します。搭載されたボタンを使用して簡単に機体とカメラを操作し、また取り外し可能な操作スティックにより送信機の保管がより容易になります。

電波干渉がない広く開けた敷地では、機体はO3+を使用し、最大1080p/60fps（解像度はモバイル端末の種類に依存）の動画伝送をスムーズに行います。送信機は2.4 GHzと5.8 GHzの両方で動作し、最適な伝送チャンネルを自動的に選択します（日本国内は2.4 GHzのみ利用可）。

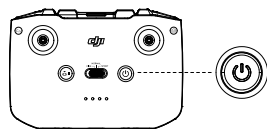
内蔵バッテリーの容量は5200 mAhで、電力量は18.72 Wh、最大駆動時間は6時間です。送信機は、500 mA@5 Vの充電能力でモバイル端末を充電します。Androidデバイスの場合、送信機は自動充電します。iOSデバイスの場合は、まずDJI Flyで充電が有効になっていることを確認してください。iOSデバイスの充電は、初期状態では無効になっており、送信機の電源が入るたびに有効にする必要があります。

- ・ 法規の準拠：送信機は現地法規に準拠しています。
- ・ 操作スティックモード：各操作スティックの動きに対応する機能は、操作スティックモードの選択によって決まります。あらかじめプログラムされている3つのモード（モード1、モード2、モード3）を使用でき、DJI Flyでカスタムモードを設定することもできます。初期状態のモードはモード2です。

送信機の使用

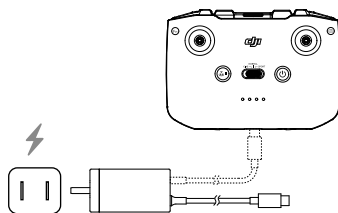
電源のオン／オフ

電源ボタンを1回押すと、現在のバッテリー残量を確認します。ボタンを1回押し、次に長押しすると、送信機の電源オン／オフを切り替えられます。バッテリー残量が少ない場合、使用前に充電してください。



バッテリーの充電

USB-Cケーブルを使用して、付属の充電器を送信機のUSB-Cポートに接続します。送信機を完全に充電するには約4時間かかります。

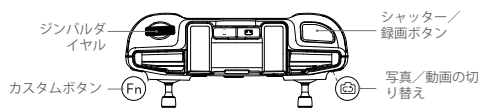


ジンバル&カメラの操作

シャッター／録画ボタン：1回押すと、写真を撮影する、または録画を開始／停止します。

写真／動画の切り替え：1回押すと写真モードと動画モードを切り替えます。

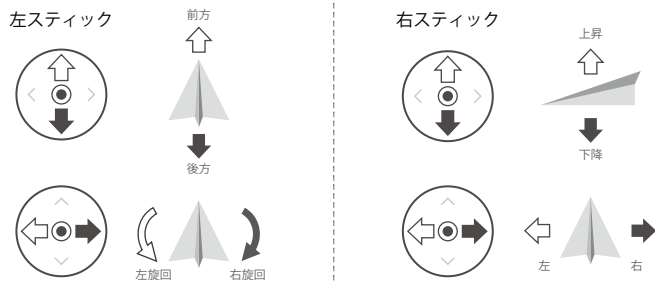
ジンバルダイヤル：このダイヤルを使ってジンバルのチルトを制御します。



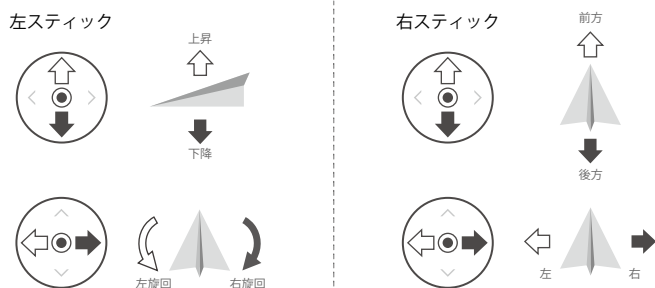
機体の制御

操作スティックを使用して、機体の向き（パン）、前後の動き（ピッチ）、高度（スロットル）、左右の動き（ロール）を制御します。各操作スティックの動きに対応する機能は、操作スティックモードの選択によって決まります。あらかじめプログラムされている3つのモード（モード1、モード2、モード3）を使用でき、DJI Flyでカスタムモードを設定することもできます。初期状態のモードはモード2です。

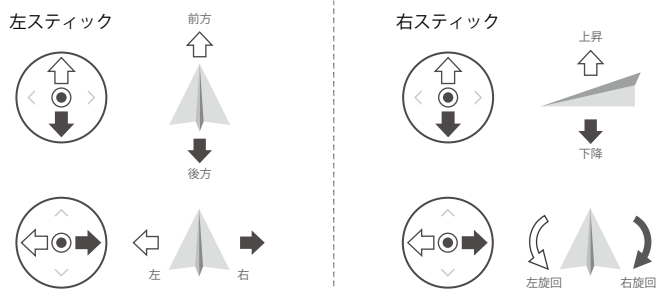
モード1

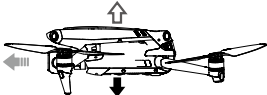
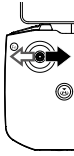
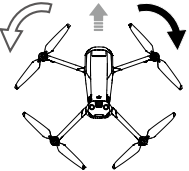


モード2



モード3

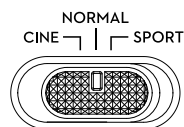


送信機 (モード2)	機体 (◀は機首方向を示す)	備考
		左スティックを上下に倒して（スロットルスティック）、機体の高度を変更します。上昇させるにはスティックを上倒し、下降させるには下倒しします。スティックが中央位置から離れるほど、機体の高度変更速度が速くなります。機体の高度を急激に変えないよう、操作スティックは優しくゆっくりと動かしてください。
		左スティックを左右に動かして（バンスティック）、機体の進行方向を制御します。スティックを左に倒すと機体は反時計回りに回転し、右に倒すと時計回りに回転します。スティックが中央位置から離れるほど、機体の回転速度が速くなります。
		右スティックを上下に倒すと（ピッチスティック）、機体のピッチを変えられます。スティックを上倒すと前進し、下倒すと後進します。スティックが中央位置から離れるほど、飛行速度が上がります。
		右スティックを左右に倒すと（ロールスティック）、機体を左右に移動できます。左に倒すと左に飛び、右に倒すと右に飛びます。スティックが中央位置から離れるほど、飛行速度が上がります。

フライトモードスイッチ

このスイッチを切り替えて、フライトモードを選択します。

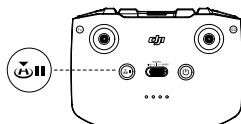
位置	フライトモード
スポーツ	スポーツモード
ノーマル	ノーマルモード
シネ	シネモード



飛行一時停止／RTHボタン

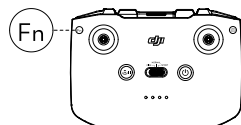
一度押すと、機体の動作にブレーキがかかり、その場でホバリングします。スマートRTHまたは自動着陸を機体が行っている場合は、一度押すと機体はその手順を終了し、ブレーキをかけます。

RTHを開始するには、送信機からビープ音が鳴るまでRTHボタンを長押しします。再度このボタンを押すと、RTHをキャンセルし機体を制御できるようになります。RTHの詳細については、「RTH (Return-to-Home：帰還)」セクションを参照してください。



カスタムボタン

DJI Flyの[システム設定]に移動し、[制御]を選択してこのボタンの機能をカスタマイズします。機能には、ジンバルの再センタリング、補助LEDの切り替え、クルーズコントロールの有効化などがあります。

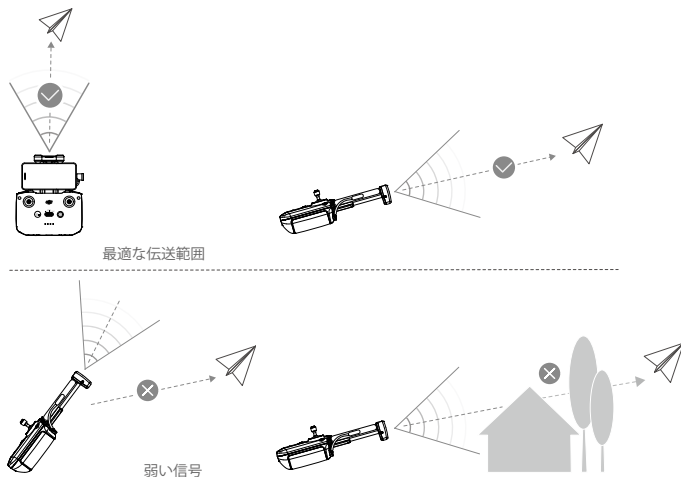


送信機のアラート

RTH実行時またはバッテリー残量が低下（6～15%）すると、送信機のアラートが鳴ります。電源ボタンを押すことにより、ローバッテリー警告をキャンセルできます。重度のローバッテリー残量警告（5%未満）はキャンセルできません。

最適な伝送範囲

機体と送信機間の信号は、アンテナと機体の相対的な位置関係が下の図に示すようになっているときに最も信頼性が高くなります。



送信機のリンク

使用前に、機体と送信機をリンクしておく必要があります。新しい送信機をリンクするには、以下の手順に従ってください。

1. 送信機と機体の電源を入れます。
2. DJI Flyを起動します。
3. カメラビューで●●●をタップし、[制御]を選択し[機体に接続（リンク）]を選択します。
4. 機体の電源ボタンを4秒以上押し続けます。機体はピープ音を1回鳴らし、リンクの準備ができたことを示します。リンクが正常に行われたら、機体でピープ音が2回鳴ります。送信機のバッテリー残量LEDが点灯します。



- ・リンクは、送信機が機体から0.5 m以内にある状態で行ってください。
- ・新しい送信機を同じ機体にリンクさせると、すでにリンクされていた送信機は自動でリンク解除されます。
- ・最適な動画伝送には、モバイル端末のBluetoothとWi-Fiをオフにします。



- ・各飛行の前に送信機を完全に充電してください。送信機は、バッテリー残量が低下するとアラート音が鳴ります。
 - ・送信機の電源がオンの状態で5分間操作をしないと、アラートが鳴ります。6分経過すると、自動的に送信機の電源が切れます。操作スティックを動かすか、任意のボタンを押すと、キャンセルされます。
 - ・モバイル端末ホルダーを調整して、モバイル端末が確実に固定されるようにします。
 - ・バッテリーを良好な状態に保つために、少なくとも3ヵ月に1回はバッテリーを完全に充電してください。
-

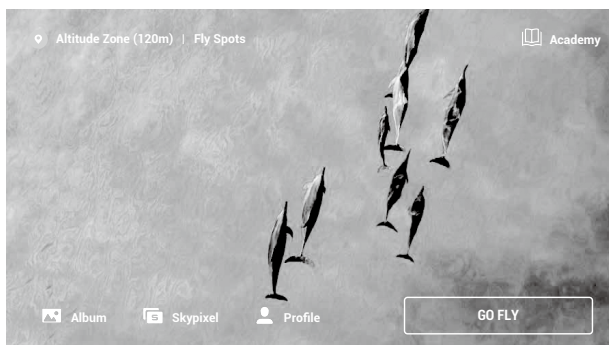
DJI Flyアプリ

本セクションでは、DJI Flyアプリの主要機能について説明します。

DJI Flyアプリ

ホーム

DJI Flyを起動して、ホーム画面に移動します。



フライスポット

近くの適切な飛行場所や撮影場所を表示または共有、GEO区域の詳細を確認、他のユーザーが撮影した様々な場所の航空写真をプレビューできます。

アカデミー

上部右のアイコンをタップすると、アカデミーに入ります。製品チュートリアル、飛行のヒント、飛行の安全性、およびマニュアル文書はこちらでご覧いただけます。

アルバム

DJI Flyとモバイル端末からの写真と動画を表示できます。作成のセクションには、テンプレートとプロがあります。テンプレートには、インポートされた映像の自動編集機能があります。プロでは、映像を手動編集できます。

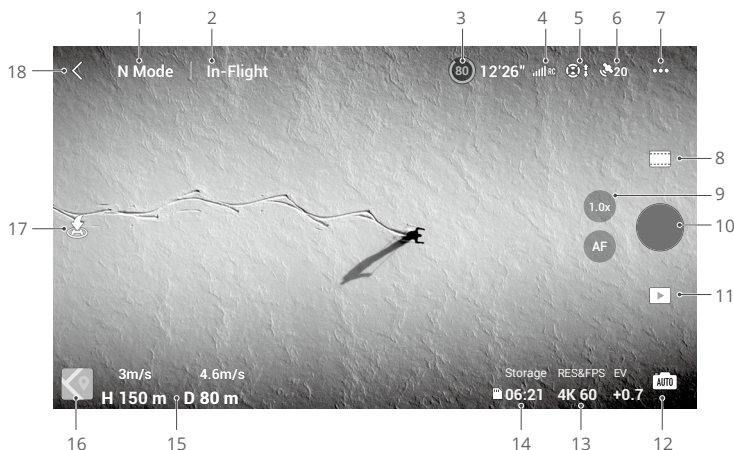
SkyPixel

SkyPixelでは、DJI製品ユーザーが共有するビデオや写真を表示できます。

プロフィール

アカウント情報、飛行記録、DJIフォーラム、オンラインストア、ドローンを探すなどの機能、その他の設定を表示します。

カメラビュー



1. フライトモード
N：現在のフライトモードを表示します。
2. システム ステータスバー
飛行中：機体の飛行ステータスを示し、様々な警告メッセージを表示します。
3. バッテリー情報
(80) 24'17"：現在のバッテリー残量と残りの飛行時間を表示します。タップすると、バッテリーの詳細情報が表示されます。
4. 動画ダウンリンク信号強度
📶：機体と送信機との間の動画ダウンリンク強度を表示します。
5. ビジョンシステムステータス
📷：アイコンの左側は全水平方向（前方／後方／側方）ビジョンシステムの状態を示し、右側は上方／下方ビジョンシステムの状態を示します。ビジョンシステムが正常に動作しているときにはアイコンは白色になり、ビジョンシステムが利用不可のときにはアイコンは赤色になります。
6. GNSSステータス
📶 20：現在のGNSSの信号強度を表示します。タップしてGNSS信号の状態を確認します。アイコンが白色のときにホームポイントの更新ができ、GNSS信号が強いことを示します。
7. システム設定
⋮：タップすると、安全／制御／伝送についての情報が表示されます。

安全

飛行アシスタント

障害物回避アクション	障害物回避を[迂回]または[ブレイキ]に設定すると、上方、全水平方向（前方／後方／側方）ビジョンシステムが有効になります。障害物回避の無効時は、機体は障害物を検知できません。
迂回オプション	迂回の使用時にはノーマルモードまたは高度迂回モードを選択します。
レーダーマップ表示	有効な場合、リアルタイムの障害物検知レーダーマップが表示されます。

RTH（Return-to-Home：帰還） タップすると、アドバンスドRTH、自動RTH高度（デフォルトの高度は100 m）の設定やホームポイントの更新を行えます。

飛行保護：タップすると、最大高度と最大距離を設定できます。

センサー：タップしてIMUとコンパスのステータスを表示し、必要に応じてキャリブレーションを開始します。

バッテリー：タップすると、バッテリーセル ステータス、シリアル番号、充電回数などのバッテリー情報が表示されます。

補助LED：タップすると、補助LEDを自動、オン、またはオフに設定できます。離陸する前に補助LEDをオンにしないでください。

機体のフロントアームLED：自動モードでは、画質に影響を与えないように、録画中は機体のフロントLEDが無効になります。

GEO区域をロック解除：タップすると、GEO区域をロック解除に関する情報を表示できます。

ドローンを探す機能は、地上にある機体の位置を見つけるのに役立ちます。

高度安全設定には、飛行中の送信機信号ロスト時やプロペラ緊急停止時の機体の動作設定、および下方ビジョンポジショニングスイッチ、AirSenseスイッチなどがあります。

信号のロスト	送信機信号ロスト時の機体の動作には、「Return-to-Home」、「降下」、「ホバリング」に設定できます。
緊急プロペラ停止	プロペラ緊急停止の設定での「緊急時のみ」とは、衝突が起きたり、モーターが動かなかったり、空中でローリングしたり、機体が制御不能になって機体が急上昇／急降下したりなど緊急事態が発生した場合にのみ飛行中にモーターを停止できることを示します。プロペラ緊急停止の設定での「随時」は、ユーザーがコンビネーションスティック コマンド（CSC）を実行すると、飛行中にいつでもモーターを停止できることを示します。飛行中にモーターが停止すると、機体は墜落します。
AirSense	AirSenseが有効になっている場合、有人航空機が検出されると、DJI Flyにアラートが表示されます。AirSenseを使用する前に、DJI Flyで表示されるプロンプトの免責事項をお読みください。

制御

機体設定

単位	メートル法または帝国単位に設定できます。
被写体スキャン	有効にすると、機体はカメラビューで被写体を自動的にスキャンし表示します（シングル撮影の写真とノーマル録画でのみ使用可能）。
ゲインと露出チューニング	ゲインと露出の設定を、異なったフライトモードにおいて機体とジンバルで微調整できるようサポートします。これには、最大水平速度、最大上昇速度、最大下降速度、最大角速度、ヨーのスムージング、ブレーキ感度、そして露出とジンバルの最大チルト制御速度とチルトのスムージングが含まれます。

- ⚠️ ・操作スティックのリリース時に、ブレーキ感度が増加すると機体のブレーキ距離が減少し、一方、ブレーキ感度が減少するとブレーキ距離が増加します。慎重に飛行してください。

ジンバル設定：タップすると、ジンバルモード、ジンバルの角度の調整や、ジンバル キャリブレーションの実行を行います。

送信機設定：タップすると、カスタムボタンの機能の設定、送信機キャリブレーション、スティックモードの切り替えなどを行います。スティックモードを切り替える前にスティックモードの操作を必ず理解してください。

ビギナー飛行チュートリアル：飛行チュートリアルを確認できます。

機体とペアリング（リンク）：送信機と機体がリンクされていないときにタップすると、リンクを開始します。

カメラ

カメラパラメーター設定：撮影モードに応じて、異なる設定を表示します。

撮影モード	設定
静止画モード	フォーマット、サイズ
録画モード	フォーマット、色、コーディング形式、動画のビットレート、動画の字幕
マスターショット	フォーマット、色、コーディング形式、動画のビットレート、動画の字幕
クイックショット	フォーマット、色、コーディング形式、動画のビットレート、動画の字幕
ハイパーラプス	出力画質、写真タイプ、撮影フレーム、フォーマット
パノラマ	写真の種類

一般設定：タップすると、ちらつき防止、ヒストグラム、ピークレベル、露出オーバー警告、グリッド線、ホワイトバランスの確認や設定を行います。

保存：映像を機体あるいはmicroSDカードに保存できます。内部ストレージとmicroSDカードをフォーマットできます。録画設定時のキャッシュとカメラリセット設定も調整できます。

伝送

ライブ配信プラットフォーム（DJI RCの使用時には非対応）、周波数、チャンネルモード設定。

詳細

デバイス名、Wi-Fi名、モデル、アプリのバージョン、機体ファームウェア、RCファームウェア、FlySafeデータ、SNなどが表示されます。

[すべての設定をリセット]をタップして、カメラ、ジンバル、安全性設定などをデフォルトにリセットします。

[すべてのデータをクリア]をタップして、すべての設定をデフォルトにリセットし、フライトログを含む内部ストレージとmicroSDカードに保存されているすべてデータを削除します。補償を請求するときには、証拠（フライトログ）の提出をお勧めします。飛行中に事故が発生したときには、フライトログをクリアする前にDJI サポートにご連絡ください。

8. 撮影モード

静止画：シングル撮影、バースト撮影、AEB、タイマー撮影。

 動画：ノーマル、ナイト、スローモーション。ノーマル動画モードでは、デジタルズームに対応しています。ナイトモードではノイズ低減が向上し、映像がより鮮明になり、最大12800 ISOまで対応しています。



- ・ナイトモードは現在4K 30fpsに対応しています。
- ・ナイトモードでは障害物回避は無効になります。慎重に飛行してください。
- ・ナイトモードはRTHまたは着陸を開始すると自動的に終了します。
- ・RTH中や自動着陸中、ナイトモードは使用できません。
- ・ナイトモードでは、FocusTrackに対応していません。

マスターショット：被写体を選択します。機体は、被写体をフレームの中央に保持しながら、様々な操作を順番に実行し録画します。その後、シネマティックな短編動画を生成します。

クイックショット：ドローニー、ロケット、サークル、ヘリックス、ブーメラン、アステロイド。

ハイパーラプス：フリー、サークル、コースロック、ウェイポイントから選択します。

パノラマ：スフィア、180°、広角、垂直から選択します。

9. デジタルズーム／AF／MF

：ズーム率を表示します。

AF/MF：このアイコンをタップしてAFとMFとを切り替えます。このアイコンを長押しするとフォーカスバーが表示されます。

10. シャッター／録画ボタン

：タップすると、写真を撮影する、もしくは動画の録画を開始／停止します。

11. 再生

：タップすると、再生画面に入り、撮影した写真や動画をすぐにプレビューできます。

12. カメラモード切り替え

：写真モードのときは、オートもしくはProをモード選択できます。モードが異なると、設定するパラメーターが異なります。Proモードでは、ちらつき防止はシャッター速度とISOが自動的に設定されているときのみ効果を発揮します。

13. 撮影パラメーター

RESAPPS 4K 60 : 現在の撮影パラメーターを表示します。タップしてパラメーター設定にアクセスします。

14. ストレージについて

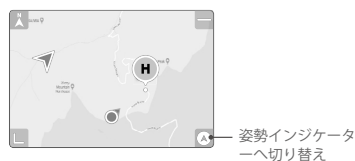
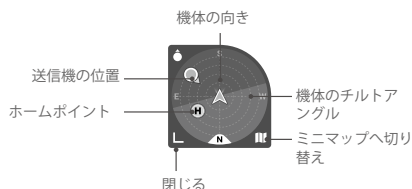
Storage 06:21 : 現在のストレージの撮影可能枚数や録画可能時間を表示します。タップしてmicroSDカードの使用可能な容量を表示します。

15. フライトテレメトリ

D 80 m H 150 m 4.6 m/s 3 m/s : 機体とホームポイント間の距離、ホームポイントからの高さ、機体の水平速度、および機体の垂直速度を表示します。

16. 地図

 : タップして姿勢インジケーターに切り替えます。機体の方向やチルト角、送信機の位置、ホームポイントの位置などの情報を表示します。姿勢インジケーターを中央に配置される機体または送信機との間で切り替えることができます。



17. 自動離陸／自動着陸／RTH

 /  : アイコンをタップします。プロンプトが表示され、ボタンを長押しすると、自動離陸や自動着陸が開始します。

 : タップするとスマートRTHプロセスが起動し、最後に記録されたホームポイントに機体を帰還させます。

18. 戻る

 : タップするとホーム画面に戻ります。

画面上を長押しすると、ジンバル調整バーが表示され、ジンバルの角度を調整することができます。

フォーカスまたはスポット測光を有効にするには、画面をタップしてください。フォーカスまたはスポット測光は、フォーカスモード、露出モード、スポット測光モードによって表示が異なります。スポット測光の使用後には画面を長押しして露出をロックします。露出のロック解除を行うには、画面をもう一度長押しします。

-
-  • DJI Flyを起動する前に、お使いの端末を完全に充電してください。
- DJI Flyを使用する際は、モバイルデータ通信容量を使用します。データ使用料についてはお使いの通信会社にお問い合わせください。
- スマートフォンを表示機器として使用している場合は、飛行中に電話を受けたり、メッセージ機能を使用したりしないでください。
-



- 画面に表示される安全性に関するヒント、警告メッセージ、および免責事項をよくお読みください。お使いの地域の関連法規を事前に確認しておいてください。ユーザーには、関連法規をすべて理解、順守して飛行する責任があります。
 - a. 自動離陸と自動着陸を使用する前に、警告メッセージを読んで理解しておいてください。
 - b. 初期状態の制限よりも高い高度に設定する前に、警告メッセージと免責事項を読んで理解しておいてください。
 - c. フライトモードを切り替える前に、警告メッセージと免責事項を読んで理解しておいてください。
 - d. GEO区域内またはその近くで出される警告メッセージと免責事項を読んで理解しておいてください。
 - e. インテリジェント フライトモードを使用する前に、あらかじめ警告メッセージを読んで理解しておいてください。
- アプリ上で、着陸するように指示するプロンプトが表示された場合は、安全な場所にすぐに機体を着陸させてください。
- 各フライトの前にアプリに表示されているチェックリストの警告メッセージをすべて確認してください。
- これまでに機体の操作経験がない場合、または自信を持って機体を操作するのに十分な経験がない場合は、アプリのチュートリアルを使って、飛行技術を練習してください。
- 飛行を開始する前にインターネットに接続して、飛行予定地域の地図データをキャッシュしてください。
- このアプリの目的は、操作をアシストすることにあります。アプリに頼りすぎず、ご自身の裁量に基づいて機体を制御してください。アプリの使用は、DJI Flyの利用規約とDJIのプライバシーポリシーの対象となります。アプリでこれらをよくお読みください。

飛行

本セクションでは、安全な飛行方法と飛行に関する制限事項について説明します。

飛行

飛行前の準備が完了したら、飛行技術を磨き、安全飛行を心がけてください。飛行は常に障害物のない開けた場所で実施してください。送信機やアプリを使用して機体を操作する方法についての詳細は、「送信機」と「DJI Fly」のセクションを参照してください。

飛行環境の条件

1. 風速12 m/s超の時や、雪、雨、霧などの悪天候時には、飛行させないでください。
2. 飛行は周囲が開けた場所でのみ行ってください。高い建造物や巨大な金属製の建造物は、機体に搭載されているコンパスやGNSSシステムの精度に影響を及ぼす場合があります。機体は、構造物から最低でも5 m以上離れて距離を保つことをお勧めします。
3. 障害物、人混み、送電線、樹木、水域を避けてください。機体は、水際から最低でも3 m以上離れて距離を保つことをお勧めします。
4. 高レベルの電磁波を発する送電線、基地局、変電所、放送用電波塔などのあるエリアを避け、電磁干渉を最小限に抑えてください。
5. 機体やバッテリーの性能は、大気密度や気温などの環境要因に左右されます。海拔6000 m以上で飛行させるときは、バッテリーと機体の性能が落ちる可能性があるため、注意を払ってください。
6. 機体は、南極圏、北極圏でGNSSを使用することはできません。そのような場所で飛行させる時は下方ビジョンシステムを使用してください。
7. 車、船、飛行機などの動いている物体から離陸させないでください。
8. 事故、火災、爆発、洪水、津波、雪崩、地滑り、地震、粉塵、砂嵐の環境下では、機体、送信機、バッテリー、バッテリー充電器を使用しないでください。
9. バッテリー充電器の使用は、5~40℃の範囲の温度環境で行ってください。
10. 機体、バッテリー、送信機、バッテリー充電器は乾いた環境で運用してください。
11. バッテリー充電器は湿った環境では使用しないでください。

責任ある機体操作

深刻な怪我や物的損害を回避するため、以下の規則を順守してください。

1. 麻酔、飲酒、服薬などの影響がないこと、めまい、疲労、吐き気などの症状がなく、機体を安全に操作する能力があることを確認してください。
2. 着陸時には、まず機体の電源を落としてから送信機の電源を切ります。
3. 建物、人体、動物に危険なペイロードを落下させたり、それらに向けて打ち上げ、発射したりしないでください。人的障害や物的損害が生じるおそれがあります。
4. 墜落した、または偶発的な損傷を受けた機体、または状態の悪い機体を使用しないでください。
5. 必ずトレーニングを十分に行い、緊急時またはインシデント発生時のための緊急時対応計画を作成してください。
6. 飛行計画が策定されていることを確認し、無謀な飛行は行わないでください。
7. カメラを使用するときは、他者のプライバシーを尊重してください。現地のプライバシー法規制と道徳的規準を必ず順守してください。

- 一般的な個人使用以外の理由で本製品を使用しないでください。
- 本製品をスパイ行為、軍事作戦、不正捜査など、違法または不適切な目的のために使用しないでください。
- 本製品を中傷、虐待、嫌がらせ、ストーキング行為、脅迫、または他人のプライバシー権やパブリシティ権など法的権利を侵害する行為に使用しないでください。
- 他人の私有地に侵入しないでください。

飛行制限とGEO区域

GEO (Geospatial Environment Online)システム

DJIのGEO (Geospatial Environment Online) システムは、飛行の安全性と制限の更新に関する情報をリアルタイムで提供する、制限空域でのUAVの飛行を防ぐグローバル情報システムです。例外的な状況では、制限エリアのロック解除を行い、飛行を許可することができます。その前に、ユーザーは目的の飛行地域の現在の制限レベルに基づいてロック解除の要請を提出する必要があります。

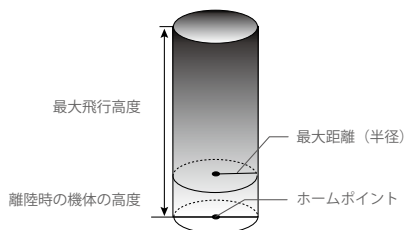
GEOシステムは、現地の法律や規制に完全に準拠していません場合があります。ご自身の飛行の安全性に責任を負い、制限エリアでの飛行のロック解除を要求する前に、関連する法的および規制要件について地方自治体に相談する必要があります。GEOシステムについての詳細は、次のサイトををご覧ください。： <https://www.dji.com/flysafe>

飛行制限

安全上の理由から、初期状態では飛行制限が有効になっており、ユーザーが機体を安全に使用できるようになっています。ユーザーは飛行制限の高度と距離を設定できます。GNSSが利用可能な場合は、高度制限、距離制限、GEO区域の機能が同時に働き、飛行安全性を管理します。GNSSが利用できない場合は、高度のみを制限できます。

飛行高度と距離制限

飛行高度と飛行距離の制限は、DJI Flyで変更できます。これらの設定に基づき、機体は下図のような制限円筒内で飛行します。



GNSS有効時

	飛行制限	DJI Flyアプリ
最大高度	機体の高度が指定の値を超えることはできません	警告：高度制限に到達
最大距離（半径）	飛行距離は最大距離（半径）内であればなりません	警告：距離制限に到達

下方ビジョンシステムのみが利用可能

	飛行制限	DJI Flyアプリ
最大高度	GNSS信号が弱い場合、飛行高度は30 mに制限されます。GNSS信号が弱く、周囲の明るさが不十分な場合、高度は3 mに制限されます。	警告：高度制限に到達。
最大距離（半径）	最大距離（半径）の制限が無効となり、アプリで警告プロンプトを受信できなくなります。	

- ⚠
- 機体の電源オン時のGNSS信号が強い場合は、GNSSが弱いときの高度制限は制限されません。
 - 機体が制限値に達した場合でも機体を操作することはできますが、それ以上遠くへは飛行させられません。本機が最大距離（半径）の外へ飛行した場合、GNSS信号が強ければ自動で範囲内に戻ります。
 - 安全上の理由から、空港、高速道路、鉄道の駅、鉄道の線路、市街地、その他の要注意エリアの近くで飛行しないでください。機体は、常に目視内で飛行させてください。

GEO区域

すべてのGEO区域は、DJI公式ウェブサイト<http://www.dji.com/flysafe/geo-map>に一覧表示されています。GEO区域は異なるカテゴリー別に分類され、空港、有人飛行機が低空で操縦されている飛行場、国境、および発電所などの要注意区域が含まれています。GEO区域を飛行している場合、DJI Flyアプリに警告プロンプトが表示されます。

フライト前チェックリスト

- 送信機、モバイル端末、インテリジェント フライトバッテリーが完全に充電されていることを確認してください。
- インテリジェント フライトバッテリーおよびプロペラがしっかり取り付けられていることを確認してください。
- 機体のアームが展開していること確認を確認してください。
- ジンバル&カメラが正常に機能することを確認してください。
- モーターの動きを妨げるものがなく、モーターが正常に機能することを確認してください。
- DJI Flyアプリが機体に正しく接続されていることを確認してください。
- カメラレンズとビジョンシステムのセンサーに汚れがないことを確認してください。
- DJIの純正部品またはDJIが認定する部品のみをご使用ください。非純正の部品やDJI認定メーカー

以外が製造した部品を使用すると、システムに不具合が発生し、安全性が損なわれるおそれがあります。

9. リモートIDが最新であり正常に動作しているかを確認してください。
10. 最大飛行高度が現地の規制に従って適切に設定されていることを確認してください。
11. 人口密集地の上空を飛行しないでください。
12. 機体と送信機が正常に機能していることを確認してください。

自動離陸／自動着陸

自動離陸

自動離陸の使用：

1. DJI Flyを起動して、カメラビューに入ります。
2. フライト前チェックリストの手順をすべて完了します。
3. をタップします。安全に離陸できる状態である場合は、ボタンを長押しして確定します。
4. 機体は離陸し、地上1.2 mの高さでホバリングします。

自動着陸

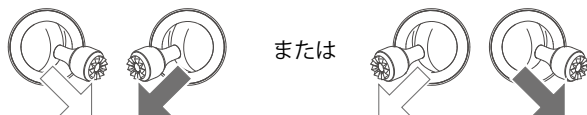
自動着陸の使用：

1. をタップします。安全に着陸できる状態である場合は、ボタンを長押しして確定します。
2. をタップすると自動着陸をキャンセルできます。
3. ビジョンシステムの動作が正常であれば着陸保護が有効化されます。
4. 着陸後にモーターは停止します。

モーターの始動と停止

モーターの始動

モーターの始動には、コンビネーション スティック コマンド (CSC) を使用します。両方のスティックを内側下角または外側下角に向けて倒して、モーターを始動します。モーターの回転が始まったら、両方のスティックを同時に放します。



または

モーターの停止

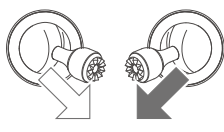
モーターの停止方法は2通りあります。

方法1：機体が着陸したら、左スティックを下に倒し、そのままの状態を維持します。モーターは1秒後に停止します。

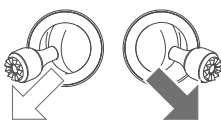
方法2：機体が着陸したら、モーター始動の時と同じCSCコマンドを実行すると、モーターが停止します。モーターは2秒後に停止します。モーターが停止したら両スティックを離します。



方法1



または



方法2

-
- ⚠️ ・モーターが予期せず起動したら、コンビネーション スティック コマンド (CSC) を使用してモーターを即時に停止させてください。
-

飛行中のモーター停止

飛行中にモーターが停止すると、機体は墜落します。飛行中のモーター停止は、衝突が起きたり、機体が制御不能になって急上昇／急降下したり、空中でローリングしたり、モーターが動かなくなるなど緊急事態が発生した場合にのみ行ってください。飛行中にモーターを停止するには、モーター始動時と同じCSCを使用します。デフォルトの設定は、DJI Flyで変更できます。

飛行テスト

離陸／着陸手順

1. 見晴らしのよい平らな場所に、機体ステータスインジケーターが自分の方を向くようにして機体を置きます。
2. 機体と送信機の電源を入れます。
3. DJI Flyを起動して、カメラビューに入ります。
4. セルフチェックが終了するまで待機します。DJI Flyで異常を知らせる警告が表示されなければ飛行可能となります。
5. スロットルスティックをゆっくり上に倒すか、自動離陸を使用して、離陸します。
6. スロットルスティックを下に倒すか、自動着陸を使用して、機体を着陸させます。
7. 着陸後、スロットルスティックを下方方向に倒しつづけます。モーターは1秒後に停止します。
8. 機体と送信機の電源を切ります。

動画に関する提案とヒント

1. フライト前チェックリストの目的は、安全に飛行し、飛行中に確実に動画を撮影できるようにすることにあります。各フライト前に、飛行前のチェックリストをすべて確認してください。
2. DJI Flyで目的のジンバル操作モードを選択してください。
3. ノーマルモードまたはシネモードを使用して動画を録画します。
4. 雨天や強風時など、悪天候のときは飛行しないでください。
5. ニーズに合ったカメラ設定を選択してください。
6. 飛行ルートと撮影シーンを想定し飛行テストを実施してください。

 ・離陸する前に、機体を平らで安定した地面に置いてください。手のひらから離陸させたり、機体を手で持ったりしないでください。

付録

付録

仕様

機体	
離陸重量	895 g
サイズ（長さ×幅×高さ）	折りたたんだ状態（プロペラなし）：221×96.3×90.3 mm 展開した状態（プロペラなし）：347.5×283×107.7 mm
対角寸法	380.1 mm
上昇速度	Sモード：1 m/s～8 m/s Nモード：1 m/s～6 m/s Cモード：1 m/s～6 m/s
下降速度	1 m/s～6 m/s
水平速度（海拔付近、無風）	Sモード：1 m/s～21 m/s、Sモード（EU）：1 m/s～19 m/s Nモード：1 m/s～15 m/s Cモード：1 m/s～15 m/s
運用限界高度（海拔）	6,000 m
最大飛行時間	46分（無風で32.4 km/hの速度で飛行時に測定）
最大ホバリング時間（無風時）	40分
最大飛行距離	30 km
最大風圧抵抗	12 m/s
最大傾斜角度	35°
最大角速度	200°/s
動作環境温度	-10℃～40℃
GNSS	GPS + Galileo + BeiDou
ホバリング精度範囲	垂直：±0.1m（ビジョンポジショニング使用時） ±0.5m（衛星測位システム使用時） 水平：±0.3m（ビジョンポジショニング使用時） ±0.5 m（高精度システムポジショニング使用時）
内部ストレージ	8 GB（7.9 GBの使用可能なストレージ）
カメラ	
センサー	4/3型CMOS、有効画素数：20 MP
レンズ	FOV：84° 焦点距離：24 mm（35mm判換算） 絞り：f/2.8～f/11 撮影範囲：1 m～∞（オートフォーカス使用時）
ISO感度	動画 ノーマルとスローモーション。 100～6400（ノーマル） 400～1600（D-Log） 100～1600（HLG） 夜間：800～12800（ノーマル） 静止画：100～6400
電子シャッター速度	1/8000～8 秒
最大静止画サイズ	5280×3956

静止画	シングル：20 MP オート露出ブラケット（AEB）：20 MP、3/5枚（0.7EVステップ時 限作動）：20MP 2/3/5/7/10/15/20/30/60秒
動画解像度	H.264 / H.265 5.1K：5120 × 2700@24/25/30/48/50fps DCI 4K：4096×2160@24/25/30/48/50/60/120*fps 4K：3840×2160@24/25/30/48/50/60/120*fps FHD：1920×1080@24/25/30/48/50/60/120*/200*fps *録画フレームレートです。該当の動画はスローモーション動画として再 生されます
最大動画ビットレート	H.264 / H.265：200 Mbps
対応ファイルシステム	exFAT
写真フォーマット	JPEG / DNG (RAW)
動画フォーマット	MP4/MOV (MPEG-4 AVC/H.264、HEVC/H.265)
色	ノーマル / HLG / D-Log
ジンバル	
安定化機構	3軸（チルト、ロール、パン）
機械的可動範囲	チルト：-135°～+100° ロール：-45°～+45° パン：-27°～+27°
操作可能範囲	チルト：-90°～35° パン：-5°～5°
最大制御速度（チルト）	100°/s
角度ぶれ範囲	±0.007°
検知システム	
種類	全方向ビジョンシステムおよび赤外線検知システム
前方ビジョンシステム	高精度測定範囲：0.5～20 m 検知範囲：0.5～200 m 有効検知速度：≤15 m/s FOV：90°（水平方向）、103°（垂直方向）
後方ビジョンシステム	高精度測定範囲：0.5～16 m 有効検知速度：≤12 m/s FOV：90°（水平方向）、103°（垂直方向）
側方ビジョンシステム	高精度測定範囲：0.5～25 m 有効検知速度：≤15 m/s FOV：90°（水平方向）、85°（垂直方向）
上方ビジョンシステム	高精度測定範囲：0.2～10 m 有効検知速度：≤6 m/s FOV：100°（前方／後方）、90°（左方／右方）
下方ビジョンシステム	高精度測定範囲：0.3～18 m 有効検知速度：≤6 m/s FOV：130°（前方／後方）、160°（左方／右方）
動作環境	前方、側方、上方、後方： 識別可能な表面及び15ルクスを超える適切な明るさのある状態 下方：壁、樹木、人など反射のない識別可能な表面（拡散反射 >20%）。はっきりとした模様で適切な明るさのある地面（ルクス >15）

伝送	
映像伝送システム	O3+
ライブビュー品質	送信機：1080p@30fps/1080p@30fps
動作周波数	2.4000～2.4835 GHz、5.725～5.850 GHz（日本では2.400～2.4835 GHzのみ）
最大伝送距離（障害物や干渉がない場合）	15 km (FCC)、8 km (CE/SRRC/MIC（日本）） 電波干渉および障害物のない環境での測定値です。上記のデータは、各基準下での復路のない片道飛行で最も遠い通信範囲を示しています。飛行中は、DJI Flyアプリで表示されるRTH（ホーム帰還）に関するリマインダーにご注意ください。
信号伝送範囲 (FCC)	強い干渉（都市部の景観、限られた視界、競合する信号が多い）：約1.5～3 km 中程度の干渉（郊外の景観、開けた目視、競合する信号が少しある）：約3～9 km 弱い干渉（開放的な景観、完全に開けた目視、競合する信号が少ない）：約9～15 km データは、干渉のない開けた場所で、異なる基準でテストされます。RTHを考慮せずに実施された、片道の飛行距離の最大値となり、あくまで参照用です。実際の飛行では、DJI FlyアプリのRTHプロンプトにご注意ください。
最大ダウンロード速度	O3+：5.5 MB/s（DJI RC-N1送信機使用時） Wi-Fi 6：80 MB/s* 2.4GHzと5.8GHzの両方の周波数帯の使用が認められた国／地域で、少し電波干渉のある環境下でのラボ環境で測定。撮影データは機体の内部ストレージに保存されます。ダウンロード速度は、実際の状況によって変わる場合があります。
遅延（環境条件およびモバイル端末に依存）	130 ms（DJI RC／RC-N1送信機使用時）
アンテナ	アンテナ×4、2T4R
伝送電力 (EIRP)	2.4 GHz：≤33 dBm (FCC)、<20 dBm (CE/SRRC/MIC（日本）) 5.8 GHz：<33 dBm (FCC)、<30 dBm (SRRC)、<14 dBm (CE)
インテリジェント フライトバッテリー	
容量	5000 mAh
標準電圧	15.4 V
最大充電電圧	17.6 V
バッテリータイプ	LiPo 4S
電力量	77 Wh
重量	335.5 g
充電温度範囲	5℃～40℃
バッテリー充電器	
入力	AC100～240 V(47～63 Hz)、2.0 A
出力	USB-C：5.0 V＝5.0 A/9.0 V＝5.0 A/12.0 V＝5.0 A/15.0 V＝4.3 A/20.0 V＝3.25 A/5.0 V-20.0 V＝3.25 A USB-A：5 V＝2 A
定格出力	65 W
充電温度範囲	5℃～40℃
保管方法	
対応SDカード	SDXC、UHS-I スピードクラス3のmicroSDカード

推奨microSDカード	Lexar 1066x 64GB V30 A2 microSDXC Lexar 1066x 128GB V30 A2 microSDXC Lexar 1066x 256GB V30 A2 microSDXC Lexar 1066x 512GB V30 A2 microSDXC SanDisk High Endurance 64GB V30 microSDXC SanDisk High Endurance 128GB V30 microSDXC SanDisk High Endurance 256GB V30 microSDXC Kingston Canvas Go! Plus 64GB V30 A2 microSDXC Kingston Canvas Go! Plus 128GB V30 A2 microSDXC Kingston Canvas Go! Plus 256GB V30 A2 microSDXC Kingston Canvas Go! Plus 512GB V30 A2 microSDXC Samsung EVO Plus 512GB V30 A2 microSDXC Samsung PRO Plus 256GB V30 A2 microSDXC Samsung PRO Plus 512GB V30 A2 microSDXC
--------------	--

DJI RC-N1 送信機

伝送システム	異なるハードウェア機器構成の機体と使用する場合、DJI RC-N1送信機は、リンクされた機体モデルのハードウェア性能において利用可能な伝送技術を使用します。機体モデルと利用できる伝送技術は以下の通りです： a. DJI Mini 2/ DJI Mavic Air 2 : O2 b. DJI Air 2S : O3 c. DJI Mavic 3 Classic/DJI Mavic 3/DJI Mavic 3 Cine : O3+
動作時間	6時間（モバイル端末を充電していない場合） 4時間（モバイル端末を充電している場合）
対応USBポートの種類	Lightning、Micro USB、USB-C
対応モバイル端末 最大サイズ（高さ×幅×厚さ）	180 mm×86 mm×10 mm
動作環境温度	-10℃～40℃
伝送電力（EIRP）	2.4 GHz: ≤26 dBm (FCC)、≤20 dBm（CE/SRRC/MIC（日本）） 5.8 GHz: ≤26 dBm (FCC/SRRC)、≤14 dBm (CE)
充電温度範囲	5℃～40℃
動作電圧	3.6 V

DJI RC送信機

伝送	
映像伝送システム	異なるハードウェア機器構成の機体と使用する場合、DJI RC送信機は、該当するファームウェアバージョンを自動で選択・更新します。DJI Mavic 3 Classicとリンクすると、O3+伝送技術に対応しません。
動作周波数	2.4000～2.4835GHz、5.725～5.850GHz（日本国内では、5.8 GHz帯は使用不可）
伝送電力（EIRP）	2.4 GHz : <26 dBm (FCC)、<20 dBm (CE/SRRC/MIC（日本）） 5.8 GHz : <26 dBm (FCC)、<23 dBm (SRRC)、<14 dBm (CE)
最大伝送距離 （障害物なし、 干渉なし）	15 km (FCC)、8 km (CE/SRRC/MIC（日本））

伝送距離 (一般的なシナリオ)	強い干渉 (例: 市内中心部) : 1.5~3 km 中程度の干渉 (例: 郊外、小さな町) : 3~7 km 干渉なし (例: 農村地域、ビーチ) : 7~12 km
Wi-Fi	
プロトコル	802.11a/b/g/n
動作周波数	2.4000~2.4835 GHz、5.150~5.250 GHz、5.725~5.850 GHz (日本国内では、5.8 GHz帯は使用不可)
伝送電力 (EIRP)	2.4 GHz : <23 dBm (FCC)、<20 dBm (CE/SRRC/MIC (日本)) 5.1 GHz : <23 dBm (FCC/CE/SRRC/MIC (日本)) 5.8 GHz : <23 dBm (FCC/SRRC)、<14 dBm (CE)
Bluetooth	
プロトコル	Bluetooth 4.2
動作周波数	2.4000~2.4835 GHz
伝送電力 (EIRP)	<10 dBm
一般	
動作環境温度	-10℃~40℃
GNSS	GPS + BeiDou + Galileo
バッテリー容量	5,200 mAh
バッテリータイプ	Li-ion
材料	LiNiMnCoO2
動作電流/電圧	1250 mA@3.6 V
ストレージ容量	対応するmicroSDカード
DJI RC送信機対応のmicroSDカード	UHS-I スピードクラス3のmicroSDカード
DJI RC送信機推奨microSDカード	SanDisk Extreme 64GB V30 A1 microSDXC SanDisk Extreme 128GB V30 A2 microSDXC SanDisk Extreme 256GB V30 A2 microSDXC SanDisk Extreme 512GB V30 A2 microSDXC SanDisk Extreme Pro 64GB V30 A2 microSDXC SanDisk Extreme Pro 256GB V30 A2 microSDXC SanDisk Extreme Pro 400GB V30 A2 microSDXC SanDisk High Endurance 64GB V30 microSDXC SanDisk High Endurance 256GB V30 microSDXC Kingston Canvas Go Plus 64GB V30 A2 microSDXC Kingston Canvas Go Plus 256GB V30 A2 microSDXC Lexar High Endurance 64GB V30 microSDXC Lexar High Endurance 128GB V30 microSDXC Lexar 633x 256GB V30 A1 microSDXC Lexar 1066x 64GB V30 A2 microSDXC Samsung EVO Plus 512GB microSDXC

ファームウェア更新

機体ファームウェアを更新するには、DJI FlyまたはDJI Assistant 2（一般向けドローン用）を使用します。

DJI Flyの使用

機体や送信機をDJI Flyに接続したときに新しいファームウェア更新がある場合、通知がされます。更新を開始するには、送信機またはモバイル端末をインターネットに接続して画面の指示に従います。送信機が機体にリンクされていない場合はファームウェアを更新できませんのでご注意ください。インターネット接続が必要となります。

DJI Assistant 2（一般向けドローン用）の使用

DJI Assistant 2（一般向けドローン用）で、機体と送信機のファームウェアを、それぞれ別々に更新できます。

DJI Assistant 2（コンシューマー向けドローンシリーズ）を使用して機体のファームウェアのアップデートを行うには、次の手順に従ってください。

1. DJI Assistant 2（一般向けドローン用）を起動し、DJIアカウントでログインします。
2. 機体の電源を入れて、パソコンのUSB-Cポートに機体を接続します。
3. [DJI Mavic 3 Classic]を選択し、左側パネルの[ファームウェア更新]をクリックします。
4. 更新したいファームウェアを選択します。
5. ファームウェアがダウンロードされるのを待ちます。ファームウェア更新が自動的に開始されます。
6. ファームウェア更新が完了すると、機体の電源が自動的に再起動されます。

DJI Assistant 2（一般向けドローン用）を使用して送信機ファームウェアのアップデートを行うには、次の手順に従ってください。

1. DJI Assistant 2（一般向けドローン用）を起動し、DJIアカウントでログインします。
2. 送信機の電源を入れ、Micro USBケーブルを使用してUSB-Cポート経由でパソコンに接続します。
3. [DJI Mavic 3 Classic送信機]を選択し、左側パネルの[ファームウェア更新]をクリックします。
4. 更新したいファームウェアを選択します。
5. ファームウェアがダウンロードされるのを待ちます。ファームウェア更新が自動的に開始されます。
6. ファームウェア更新が完了するまで待ちます。

- ⚠
- ・ファームウェア更新は必ず上記手順に従って行ってください。手順に従わないと、更新に失敗する場合があります。
 - ・ファームウェア更新には約10分かかります。ジンバルが遅く動作し、機体ステータスインジケータが点滅して機体が再起動しますが、これは正常な動作です。更新が完了するまでお待ちください。
 - ・パソコンがインターネットに接続されていることを確認してください。
 - ・更新を実行する前に、インテリジェント フライトバッテリーのバッテリー残量が40%以上あり、送信機のバッテリー残量が30%以上あることを確認してください。
 - ・更新中は、機体をコンピューターから取り外さないでください。
 - ・DJIから指定されていないハードウェアやソフトウェアは使用しないでください。

トレーサビリティの目的でのファームウェア更新情報の詳細はMavic 3 Classicリリースノートを参照してください。

メンテナンスについての指示

子供や動物への深刻な傷害を避けるために、次の規則を守ってください。

1. ケーブルやストラップなどの小さい部品は、飲み込むと危険です。すべての部品を子供やペットの手の届かない場所に保管してください。
2. 内蔵のLiPoバッテリーが過熱しないように、インテリジェント・フライト・バッテリーと送信機は直射日光の当たらない、涼しくて乾燥した場所に保管してください。3ヵ月以上の期間にわたって保管する場合は、22℃～28℃の保管環境温度を推奨します。温度が-10℃～45℃の範囲を超える環境では保管しないでください。
3. カメラを水、その他の液体に接触させたり、浸したりしないでください。万が一濡れた場合は、柔らかく吸収性の高い布で拭いて、乾かしてください。落下し浸水した機体の電源を入れると、構成部品が完全に損傷する恐れがあります。アルコール／ベンジン／シンナーなどの可燃性物質を含む物質を用いて、カメラを清掃したりメンテナンスしたりしないでください。湿気や埃の多い場所にカメラを保管しないでください。
4. 本製品をバージョン3.0より古いUSBインターフェースに接続しないでください。本製品を「Power USB」や、それと同様なデバイスに接続しないでください。
5. 墜落や重大な衝撃を受けた場合は、機体の各部を確認してください。問題やご質問がある場合は、DJI正規代理店にご相談ください。
6. バッテリー残量インジケーターを定期的に確認して、現在のバッテリー残量とバッテリー駆動時間を確認してください。バッテリーの定格は200サイクルです。これを超える使用は、推奨していません。
7. 飛行後チェックリスト
 - a. インテリジェント フライトバッテリーおよびプロペラが良好な状態であることを確認してください。
 - b. カメラレンズとビジョンシステムのセンサーに汚れがないことを確認してください。
 - c. 機体の保管や持ち運びの前に、ジンバル プロテクターを必ず取り付けようにしてください。
8. 電源オフ時には、必ずアームを折りたたんだ状態で機体を持ち運ぶようにしてください。
9. 電源オフ時には、必ずアンテナを折りたたんだ状態で送信機を持ち運ぶようにしてください。
10. 長期間保管するとバッテリーはスリープモードに入ります。バッテリーを充電することによりスリープモードを終了します。
11. 収納しない期間を延ばす必要がある場合は、NDフィルターを使用します。NDフィルターの取り付け方法については製品情報を参照してください。
12. 機体、送信機、バッテリー、充電器は乾いた環境で保管してください。
13. 機体を整備する前にバッテリーを取り外してください（清掃またはプロペラの取り付けと取り外しなど）。機体やプロペラに泥や埃がついていれば必ず柔らかい布で清掃して取り除いてください。濡れた布やアルコール分を含んだ洗浄剤を使用して機体を清掃しないでください。液体は機体のハウジングに侵入し、短絡や電子部品破損の原因となります。
14. プロペラの交換や点検時にはバッテリーの電源を切ってください。

トラブルシューティング手順

1. 最初の飛行前にバッテリーが使用できませんが、なぜでしょうか？
最初に使用する前にバッテリーを充電して、バッテリーをアクティベーションしてください。
2. 飛行中のジンバルのドリフト問題はどのように解決すればよいですか？
DJI FlyアプリでIMUとコンパスをキャリブレーションします。不具合が解決しない場合は、DJIサポートにお問い合わせください。
3. 機能しません
インテリジェント フライトバッテリーと送信機が充電によってアクティベーションされているかを確認します。この不具合が解決しない場合は、DJIサポートにお問い合わせください。
4. 電源投入と起動に関する問題
バッテリーから電源供給されているかを確認します。電源供給されている場合に、正常に起動しなければDJI サポートまでお問合せください。
5. ソフトウェア更新の問題
ユーザーマニュアルの指示に従ってファームウェアを更新してください。ファームウェア更新が失敗した場合は、すべてのデバイスを再起動してから再試行してください。不具合が解決しない場合は、DJIサポートにお問い合わせください。
6. 工場出荷時のデフォルトあるいは最後に確認された正常動作構成にリセットする手順
DJI Flyアプリを使用して工場出荷時の設定にリセットします。
7. シャットダウンおよび電源オフの問題
DJIサポートにお問い合わせください。
8. 不注意な取り扱いや安全性に問題のある状態での保管を検知する方法
DJIサポートにお問い合わせください。

リスクと警告

電源投入後に機体がリスクを検出するとDJI Flyアプリに警告プロンプトが表示されます。以下の取り上げた状況に注意してください。

1. その場所が離陸に適していない場合。
2. 飛行中に障害物を検出した場合。
3. その場所が着陸に適していない場合。
4. コンパスまたはIMUが干渉に遭遇し、キャリブレーションの必要がある場合。
5. プロンプトが表示されたら画面上の指示に従います。

廃棄処分について



機体と送信機を廃棄するときには電子機器に対する現地規制を順守してください。

バッテリーの廃棄

バッテリーを廃棄する際は、完全に放電してから、指定のリサイクル容器に入れて廃棄してください。バッテリーを普通のごみ容器に捨てないでください。バッテリーの廃棄やリサイクルに関する現地の規制を厳守してください。

バッテリーの過放電後、電源が入らない場合は、直ちにバッテリーを廃棄してください。

インテリジェント フライトバッテリーの電源オン/オフボタンが不能になり、バッテリーを完全に放電できない場合は、バッテリーの廃棄/リサイクル業者に問い合わせ、サポートを受けてください。

C1 認定

Mavic 3 ClassicはC1認定に適合しています。Mavic 3 Classicを欧州経済領域（欧州連合とノルウェー、アイスランド、リヒテンシュタインなどのEEA）で使用するときには要件と規制が存在します。

UAS クラス	C1
音量レベル	83 dB
最大プロペラ速度	7500 RPM

MTOM記述

Mavic 3 Classic（L2Cモデル）のMTOMは、SDカードを含んで895 gであり、C1要件に適合しています。

MTOM C1要件に適合するためには、以下の指示に従う必要があります。従わない場合は、機体はC1 UAVとして使用することができません：

- 1. プロペラガードなどのいかなるペイロードも機体に追加しない。
- 2. インテリジェント フライトバッテリーやプロペラなどの適格性のないいかなる交換部品も使用しない。
- 3. 機体に部品を後付けしない。

-  •パイロットと機体の水平距離が5 m未満の場合には「ローバッテリー-RTH」のプロンプトは表示されません。
- 被写体と機体との水平距離が50 mを超えているときはフォーカストラックは自動的に終了します（EU諸国でフォーカストラックを使用しているときのみ使用可能）。
- EU地域での使用時には補助LEDは自動に設定され、変更できません。EU地域での使用時には機体のフロントアームLEDは常時オンになり、変更できません。

直接リモートID

1. 伝送方法：Wi-Fiビーコン
2. 機体にUAS運用登録者番号をアップロードする方法：DJI Flyアプリに入り、[安全性]->[UASリモート識別]で、UAS運用者登録番号をアップロードします。

適格アクセサリーを含む品目一覧

1. DJI Mavic 3 Classic低騒音プロペラ（モデル：9453F、8.5 g）
2. DJI Mavic 3 Classic NDフィルターセット（ND 4/8/16/32/64/128/256/512）（2.3 g）
3. DJI Mavic 3 Classicインテリジェント フライトバッテリー（モデル：BWX260-5000-15.4、335.5 g）

スペアおよび交換部品の一覧

1. DJI Mavic 3 Classic低騒音プロペラ（モデル：9453F）
2. DJI Mavic 3 Classicインテリジェント フライトバッテリー（モデル：BWX260-5000-15.4）

送信機の警告

機体を2秒以上接続解除すると送信機のインジケーターが赤色で点灯します。

機体から4.5秒以上接続解除するとDJI Flyアプリは警告を表示します。

機体から長時間接続解除されるか操作を行わなかった場合には、送信機はピープ音を発して電源が切れます。

-
- △
- ・送信機と他の無線機器との干渉を避けてください。近くのモバイル端末のWi-Fiを必ずオフにしてください。干渉が存在する場合にはできるだけ早く機体を着陸させてください。
 - ・スマートフォンを飛行のモニターに使用しているときには、外光条件が明るすぎたり暗すぎたりする場合は機体を運用しないでください。飛行操作中に直射日光下でモニターを使用するとき、ユーザーには画面の明るさを適切に調整することが求められます。
 - ・意図しない操作ミスがあった場合には、操作スティックから手を放すか、飛行一時停止ボタンを押します。
-

GEO認識

GEO認識には以下で取り上げる機能が存在します。

UGZ（無人地理的区域）データ更新：データ更新機能を使用してGPS経由で安全飛行データを更新し、そのデータを機体に保存できます。

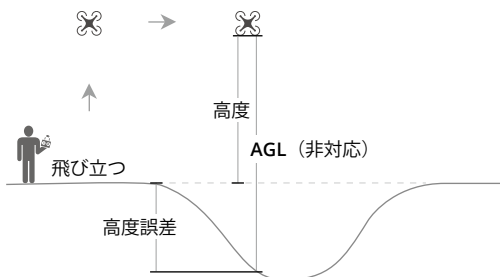
GEO認識マップ描画：最新のUGZデータが更新されると、制限区域つきの飛行マップがDJI Flyアプリに表示されます。名称、実効時間、高さ制限などを区域をタップすることで表示できます。

GEO認識事前警告：機体が制限エリア付近を飛行しているとき、制限エリアからの水平距離が160 m未満のとき、垂直距離が40 m未満のときにアプリが警告情報を表示し、ユーザーに対して慎重に飛行するよう注意喚起します。

AGL（対地高度）記述

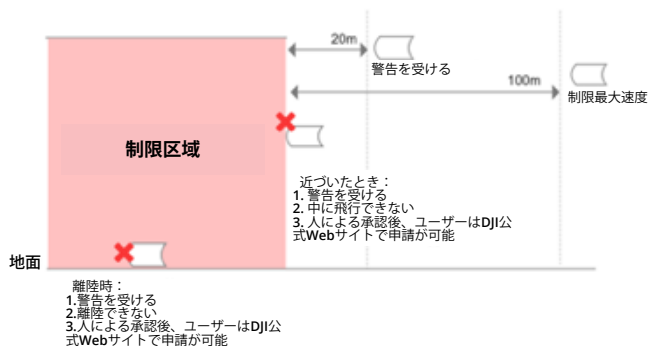
「GEO認識」の垂直方向の部分はAMSL高度またはAGL高度を使用することもできます。これら2つの基準の選択は、各UGZに対して個別で指定されています。DJI Mavic 3 Classicでは、AMSL高度とAGL高度のどちらも非対応です。DJI Flyアプリのカメラビューで表示される高度Hは、機体の離陸ポイントから機体までの高さです。離陸ポイントからの高さは近似として使用することができます。

が、指定されたUGZに対する所定の高度／高さで多少異なる場合があります。遠隔操作でも、UGZの垂直制限に違反しないよう依然として責任があります。



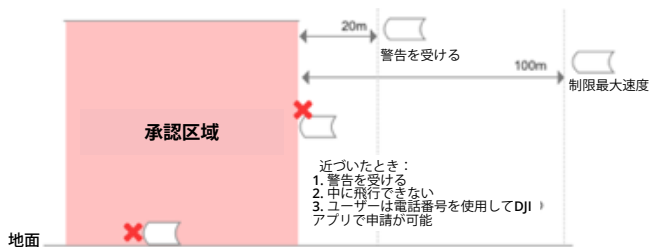
制限区域

DJIアプリに赤色で表示されます。ユーザーはプロンプトにより警告され、飛行は妨げられます。UAはこれらの区域内では飛行も離陸もできません。制限区域はロック解除できます。ロック解除するにはflysafe@dji.comまで問い合わせるか、dji.com/flysafeで「Unlock A Zone」にアクセスしてください。



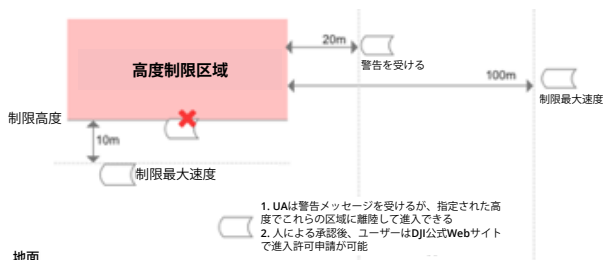
承認区域

DIアプリに青色で表示されます。ユーザーはプロンプトで警告を通知され、デフォルトでは飛行は制限されます。UAは承認を受けない限り、これらの区域内では飛行も離陸もできません。承認区域は、DI認証済みアカウントを使用して認定ユーザーがロック解除できます。



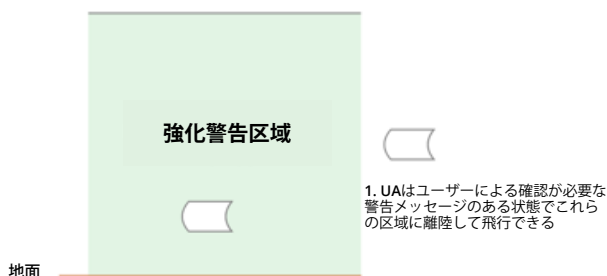
高度制限区域

高度制限区域は制限された高度の区域で、マップではグレーで表示されます。近づくと、ユーザーはDJIアプリで警告を受けます。



強化警告区域

ドローンがこの区域の端に達するとユーザーに警告メッセージがプロンプト表示されます。



警告区域

ドローンがこの区域の端に達するとユーザーに警告メッセージがプロンプト表示されます。



- ⚠️ • 機体とDJI FlyアプリがGPS信号を取得できないときには、GEO認識機能は機能しません。機体のアンテナが干渉を受けるか、DJI FlyアプリのGPS承認を無効に設定しているとGPS信号取得失敗の原因になります。

本マニュアルはSZ DJI Technology, Inc.からの適用で、内容は変更される場合があります。

住所：14th Floor, West Wing,

Skyworth Semiconductor Design Building, No 18 Gaoxin South 4th Ave, Nanshan District,
Shenzhen, China, 518057.

アフターサービス情報

アフターサービスポリシー、修理サービス、サポートについては、<https://www.dji.com/support>をご覧ください。

お問い合わせはコチラ



連絡先

DJI サポート

本内容は変更されることがあります。



<https://www.dji.com/mavic-3-classic/downloads>

本書についてご質問がある場合は、以下にメッセージを送信してDJIまでお問い合わせください。DocSupport@dji.com

 と MAVIC は DJI の商標です。

Copyright © 2022 DJI All Rights Reserved.